


第44回全国公民館研究集会
第57回東海北陸公民館大会 富山大会
(第16回 富山県公民館大会)

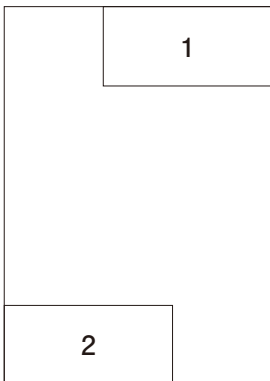
大会記録

と き／令和4年9月8日(木)・9日(金)

ところ／富山県民会館 他 3会場



公益社団法人 全国公民館連合会
東海北陸公民館連合会
富山県公民館連合会



表紙写真説明

- 1 秋の相倉合掌造り集落ライトアップ
- 2 松川べりの桜とお花見遊覧船

大会スナップ

大会第1日目



全体会会場風景



開会行事



アトラクション「越中五箇山民謡」 南砺平高等学校郷土芸能部



司会 米原氏



開会のことば 中村副会長



主催者挨拶 全公連・東陸公連 中西会長 祝辞 新田知事



歓迎のことば 藤井富山市長



文科省施策説明 黄地課長



記念講演 立野館長



閉会のことば 高井副会長



全国優良職員表彰



全国永年勤続表彰



東海北陸表彰



富山県永年勤続表彰



大会旗引継ぎ 岐阜県三輪会長へ

大会スナップ

大会第2日目

第1分科会



第2分科会



第3分科会



第4分科会



第5分科会



目次

| | |
|-------------------|----|
| 大会概要 | 2 |
| あいさつ | 7 |
| 表彰受賞者 | 8 |
| 祝辞 富山県知事 新田八朗氏 | 12 |
| 歓迎のことば 富山市長 藤井裕久氏 | 13 |

施策説明

社会教育の推進と施策の動向について

| | |
|------------------------------|----|
| 文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 課長 黄地吉隆氏 | 14 |
|------------------------------|----|

記念講演

とやまの自然と文学～近現代文学（散文）を中心として～

富山県射水市大島絵本館

| | |
|----------|----|
| 館長 立野幸雄氏 | 20 |
|----------|----|

分科会

| | |
|--------------------|----|
| 第1分科会 公民館等の管理・運営 | 30 |
| 第2分科会 地域づくりと公民館 | 36 |
| 第3分科会 家庭・学校・地域との連携 | 42 |
| 第4分科会 ポストコロナの公民館 | 48 |
| 第5分科会 新たな時代の公民館 | 54 |
| 閉会行事 | 60 |

資料

| | |
|---------|----|
| 大会役員 | 62 |
| 大会実行委員会 | 63 |

第44回全国公民館研究集会・第57回東海北陸公民館大会 富山大会概要

1 趣 旨

近年、少子高齢化、情報化、グローバル化等、社会が目まぐるしく変化し、公民館をめぐる環境も大きく変化しています。地震、集中豪雨等自然災害の多発は、防災拠点としての公民館の存在意義の再認識をもたらし、人口減少、過疎化、市町村合併等が地域の在り方を大きく変えました。社会教育法の改正や中央教育審議会の議論に伴う制度的な変化が社会教育の現場に变革を求めています。そして、新型コロナウイルスによる感染症は大きな問題を引き起こしましたが、晴れてコロナがほぼ終息し、本来の活動を取り戻す際は、コロナ対応の中で編み出された様々な手法も取り込んでいこうというポストコロナを見据えた筋道をも追求する必要があります。

以上のような防災、人口減少、制度面での変革、コロナ対応等の視点が「公民館活動の新たなステージ」の課題として求められています。そして、これからの公民館には、これらの課題解決への取り組みを進めていくとともに、地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割が期待されています。

ここに、東海北陸各県の公民館関係者をはじめ、社会教育・生涯学習関係者が一堂に集い、実践活動の紹介や研究討議を通して学びあい、様々な「つながり」を通じて結びあい、公民館活動の新たなステージへ共に歩を進めようとするものです。

2 大会主題 公民館活動の新たなステージ
～社会の変化に即した活力ある地域づくり・人づくりの拠点を目指して～

3 開催期日 令和4年9月8日（木）・9日（金）

4 会 場 第1日目：全体会 富山県民会館ホール
第2日目：分科会 パレブラン高志会館カルチャーホール
サンシップとやま福祉ホール
北日本新聞ホール、富山県民会館（2会場）

5 開催方法 ・対面による通常開催とする。
・大会参加申込者で、都合により会場に出かけられない場合、Zoomによるライブ配信を利用できます。
第1日目：全体会 Zoomによるライブ配信（受信のみ可能）
第2日目：分科会 Zoomによるライブ配信（質疑応答も可能）
・コロナの状況により、開催方法を変更することがあります。
※ 変更はありませんでした。

6 主 催 共 催 後 援 公益社団法人全国公民館連合会、東海北陸公民館連合会、富山県公民館連合会
富山県教育委員会、富山市教育委員会
文部科学省、富山県、富山市、岐阜県教育委員会、石川県教育委員会、福井県教育委員会
愛知県教育委員会、三重県教育委員会、富山県市長会、富山県町村会
富山県市町村教育委員会連合会、富山県社会教育委員連絡協議会、富山県教育会
北日本新聞社

7 参加者 公民館職員、県市町村教育委員、同社会教育委員、同社会教育行政職員
公民館事業及び社会教育・生涯学習に係る団体等関係者
学校教育関係者、地域づくり活動関係者、一般市民等
1,201名（県外370名、県内831名、Zoom参加者149名）



主催者



来賓

8 日 程

第1日 9月8日(木) 全体会(富山県民会館ホール)

13:00～13:15 アトラクション

演 目 「越中五箇山民謡」こきりこ 早麦屋 お小夜節 麦屋節
出 演 富山県立南砺平高等学校 郷土芸能部

13:20～14:10 開会行事

| | | |
|--------|-----------------------|-------------|
| 開会のことば | 富山県公民館連合会副会長 | 中 村 茂 信 |
| 来賓紹介 | 文部科学省総合教育政策局地域学習推進課課長 | 黄 地 吉 隆 氏 |
| | 富山県知事 | 新 田 八 朗 氏 |
| | 富山県議会議長（代理）副議長 | 瘧 師 富 士 夫 氏 |
| | 富山市長 | 藤 井 裕 久 氏 |
| | 富山市議会議長 | 鋪 田 博 紀 氏 |
| | 富山県教育委員会教育長 | 荻 布 佳 子 氏 |
| | 富山市教育委員会教育長 | 宮 口 克 志 氏 |
| | 富山県社会教育委員連絡協議会会長 | 山 西 潤 一 氏 |
| | 富山県教育会会長（代理）理事・事務局長 | 喜 多 野 雄 二 氏 |

国歌斉唱

主催者挨拶 公益社団法人全国公民館連合会会長
東海北陸公民館連合会会長

中 西 彰

表彰式 全国公民館連合会表彰
東海北陸公民館連合会表彰
富山県公民館大会表彰

祝 辞 富山県知事

新 田 八 朗 氏

歓迎のことば 富山市長

藤 井 裕 久 氏

公民館の歌斉唱

14:10～14:50 文部科学省施策説明

演 題 「社会教育の推進と施策の動向について」
講 師 文部科学省総合教育政策局地域学習推進課課長

黄 地 吉 隆 氏



アトラクション



会場全体

15:00 ~ 16:10 記念講演

| | | |
|-----|---------------|-----------|
| 演 題 | 「とやまの自然と文学」 | |
| 講 師 | 富山県射水市大島絵本館館長 | 立 野 幸 雄 氏 |

16:10 ~ 16:25 全体会閉会行事

| | | |
|-----------|---------------|---------|
| 大会宣言 | 富山県公民館連合会副会長 | 大 野 聡 一 |
| 大会旗引継ぎ | | |
| 次期開催県あいさつ | 岐阜県公民館連合会会長 | 三 輪 賢 司 |
| 事務連絡 | 富山県公民館連合会事務局長 | 本 田 正 則 |
| 閉会のことば | 富山県公民館連合会副会長 | 高 井 清 高 |

16:45 ~ 17:30 分科会打合せ(富山県民会館611号室)

| | |
|---------|--------------------------------|
| 主催者挨拶 | 東海北陸公民館連合会会長 大会実行委員会分科会部会部長 |
| 助言者紹介 | 大会実行委員会事務局長 |
| 運営説明 | 大会実行委員会分科会部会副部長 |
| 分科会別打合せ | |

17:30 ~ 分科会会場準備(各分科会会場)

第2日 9月9日(金) 分科会(各会場)

- 第1分科会：パレブラン高志会館カルチャーホール
- 第2分科会：サンシップとやま福祉ホール
- 第3分科会：北日本新聞ホール
- 第4分科会：富山県民会館 304 号室
- 第5分科会：富山県民会館 401 号室

9:20 ~ 9:35 開会行事

| | |
|----------------|-----------------|
| 開会の挨拶 | 分科会運営責任者 |
| 役員紹介 | 助言者、司会者、発表者、記録者 |
| 司会者挨拶・協議の進め方確認 | |

〔助言者〕

| | | |
|-------|-----------------------------|----------|
| 第1分科会 | 富山大学地域連携推進機構生涯学習部門副部門長 教授 | 藤田 公仁子 氏 |
| 第2分科会 | 氷見市公民館連絡協議会 副会長 | 河上 昌俊 氏 |
| 第3分科会 | 富山県教育委員会生涯学習・文化財室家庭成人教育班 班長 | 麦谷 理香 氏 |
| 第4分科会 | 全国公民館連合会 事務局次長 | 村上 英己 氏 |
| 第5分科会 | 富山県民生涯学習カレッジ 学長 | 菊池 政則 氏 |

9:35 ~ 10:25 事例発表

| | | |
|-------|---------------------------------------------------------------|-------|
| 第1分科会 | ともに学び、育ちあいのできる居場所づくり 岐阜県 多治見市根本交流センター 所長 児童クラブと協力した事業運営 | 塚本 景子 |
| | 富山県 小矢部市公民館連絡協議会 副会長 | 藤田 一彦 |
| 第2分科会 | 様々な垣根をこえた対話の創造－地域課題の解決に向けて－ 富山県 射水市金山コミュニティセンター 生涯学習推進委員 | 松原 美砂 |
| | 持続可能な公民館活動の在り方 富山県 氷見市阿尾公民館 館長 | 濱本 純雄 |
| 第3分科会 | 家庭・学校・地域との連携、協働を推進する公民館の在り方 愛知県 碧南市大浜公民館 館長 | 新美 勉 |
| | 家庭・学校・地域を結ぶ活動を目指して 富山県 黒部市立村椿公民館 館長 | 岡島 茂 |
| 第4分科会 | ポストコロナを見据えた公民館活動 福井県 福井市清明公民館 館長 | 川口 英雄 |
| | ウィズコロナからポストコロナに向けての新しい公民館活動 富山県 富山市山室校下自治振興会 事務職員 | 布施 智課 |
| 第5分科会 | 地域活性化事業とふるさと再発見 石川県 小松市公民館連合会 会長 | 中屋 幸夫 |
| | 地域防災における公民館の役割 富山県 富山市立豊田公民館 館長 | 舛谷 友義 |

10:35 ~ 12:10 研究協議・まとめ

12:10 ~ 12:20 閉会行事



分科会の様子



質問するZoom参加者

第44回全国公民館研究集会・第57回東海北陸公民館大会富山大会 全体会参加者数

| | 今大会 期待数 | 全体会 会費参加者 | Zoom参加 【内数】 | 司会者 | 発表者 | 表彰者 | 実行委員 (役員) | 運営委員 | 参加者 合計 |
|-----|------------|--------------|----------------|-----|-----|-----|--------------|------|-----------|
| 石川県 | 250 | 189 | 40 | 1 | 1 | 13 | 2 | | 206 |
| 岐阜県 | 80 | 29 | 9 | 1 | 1 | 0 | 2 | | 33 |
| 福井県 | 110 | 74 | 2 | 1 | 2 | 7 | 2 | | 86 |
| 愛知県 | 45 | 20 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 24 |
| 三重県 | 15 | 10 | 6 | | | | | | 10 |
| 新潟県 | | 3 | 0 | | | | | | 3 |
| 長野県 | | 2 | 0 | | | | | | 2 |
| 秋田県 | | 1 | 0 | | | | | | 1 |
| 福岡県 | | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| 北海道 | | 2 | 0 | | | | | | 2 |
| 東京都 | | 2 | 0 | | | | | | 2 |
| 富山県 | 920 | 643 | 90 | 1 | 6 | 32 | 47 | 102 | 831 |
| 計 | 1,420 | 976 | 149 | 5 | 11 | 53 | 54 | 102 | 1,201 |

期待数 1,160名

県外370名 県内831名 合計1,201名

【内 Zoom参加者149名】



県民会館正面風景



ほぼ満席のホール内

開会のことば

富山県公民館連合会
副会長 中村 茂 信

本日、このように多くの皆様にご出席をいただきまして、大会を開催できますこと大変感謝をしております。コロナの状況について心配していましたが、多くの皆様のご協力により、この度開催の運びとなりました。

東海北陸各県の役員や関係者、そして県内外からお越しいただいた沢山の皆様、ようこそお越しくださいました。ありがとうございます。

ここに、第44回全国公民館研究集会・第57回東海北陸公民館大会富山大会、そして第16回富山県公民館大会を開会いたします。



ごあいさつ

公益社団法人全国公民館連合会
東海北陸公民館連合会

会長 中西 彰

皆さんこんにちは。

第44回全国公民館研究集会、第57回東海北陸公民館大会
富山大会、並びに第16回富山県公民館大会の開催に当たり、
主催者としてご挨拶申し上げます。



文部科学省地域学習推進課長黄地吉隆様、富山県知事新田八朗様、富山市長藤井裕久様はじめ、先ほどご紹介させていただきましたご来賓の皆様には、公務ご多端の中ご臨席賜りまことにありがとうございます。

また、東海北陸5県並びに全国6都道県からお越しの皆様、ようこそおいでくださいました。後程表彰を受けになる皆様や県内一般参加者、役員・係員を含め1,200余名の方々が、会場内外に、さらにはオンラインでもご参加いただいておりますことは、主催者としてまことにありがたく、心から感謝申し上げます。

この2日間、「公民館活動の新たなステージ～社会の変化に即した活力ある地域づくり・人づくりの拠点を目指して～」のテーマのもと、新時代を切り拓く公民館活動の歩みを共に進めようではありませんか。

コロナ禍への対応に社会全体が翻弄されたこの2年半、この全国公民館研究集会も開催の可否や開催方法等、各ブロックの実情に応じて慎重に検討されてきました。ここ東海北陸ブロックでは、一昨年は延期を余儀なくされ、昨年は主催された福井県のみでの参集による大会でしたが、今年度は参加者の制限を外し、対面とオンラインのハイブリッドによる開催に踏み切りました。主催者としても感染予防に万全の対策を講じておりますが、ご参集の皆様におかれましても、格段の注意を払って行動していただくようお願いします。

戦後間もなく発足した公民館は、高度経済成長、少子高齢化、人口減少等、時々大きな社会変化に対応してまいりました。中でも近年の地方自治体の合併は公民館数の減少など、目に見える変化のみならず、公民館の運営や連合会組織の在り方などにも大きな影響を及ぼしていますが、みんなの力でこの課題を乗り越えなければならないと考えています。

また、現下のコロナ禍においても、全国各地の公民館は苦勞を強いられましたが、その中からさまざまな創意工夫が産み出されました。この成果は、ウイズコロナ、ポストコロナにおいても、大きな力になるものと確信しております。そうした意味においても、本大会が「新時代の公民館研究集会」の先駆けとなるよう、決意を新たにするとともに、参加いただいた皆様が、ここで学んだ成果を活かして、公民館が地域の人びとの絆を結び、人びとのかけがえのない拠り所となることを願っております。

おわりに、文部科学省をはじめ、本大会開催のためにご尽力くださったすべての公民館関係者に感謝を申し上げますとともに、全国の公民館や本日お集まりの皆様の今後の限りない発展をお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

2日間よろしく願いいたします。

令和4年度全国公民館連合会表彰受賞者

優良職員表彰

| | | |
|-----|--------|-----------------|
| 石川県 | 越田 智弘 | 金沢市野町公民館 館長 |
| 福井県 | 重野 けいこ | 鯖江市新横江公民館 公民館主事 |
| 岐阜県 | 葛谷 とみ子 | 岐阜市長良公民館 公民館主事 |
| 愛知県 | 加藤 初恵 | 半田市立向山公民館 主事 |
| 富山県 | 永田 晋治 | 滑川市山加積地区公民館 館長 |

功労者表彰

| | | |
|-----|-------|---------------|
| 石川県 | 南 匡志 | 石川県公民館連合会 |
| 福井県 | 江岸 徹 | 福井県公民館連合会 前会長 |
| 愛知県 | 廣中 達憲 | 愛知県公民館連合会 前会長 |

公連勤続職員表彰

| | | |
|-----|-------|-----------------|
| 石川県 | 石江 政信 | 石川県公民館連合会 前事務局長 |
|-----|-------|-----------------|



全国優良職員表彰 永田館長



全国永年勤続表彰 高井館長



全国永年勤続表彰者

永年勤続表彰

| | | |
|---------|---------|-------------------------------|
| 石川 県 | 牧 畠 玉 美 | 金沢市米丸公民館 主事 |
| | 田 村 昌 子 | 金沢市粟崎公民館 主事 |
| | 浦 島 孝 弘 | 金沢市戸板公民館 主事 |
| | 野 上 外貴江 | 金沢市崎浦公民館 主事補 |
| | 小 橋 和 代 | 輪島市立三井公民館 前主事 |
| | 新 出 直 美 | 珠洲市立直公民館 主事 |
| | 脇 田 恵美子 | 珠洲市立三崎公民館 主事 |
| | 河 畑 久 美 | 加賀市立東谷口公民館 事務職員 |
| | 出 島 ひとみ | 白山市立河内公民館 主事 |
| | 領 家 廣 野 | 白山市立柏野公民館 主事 |
| 福 井 県 | 徳 井 早 苗 | 野々市市押野公民館 主事 |
| | 高 島 幸 子 | 内灘町立ハマナス公民館 主事 |
| | 加 藤 美由紀 | 大野市下庄公民館 公民館主事 |
| | 金 崎 千 鶴 | 坂井市春江中コミュニティセンター コミュニティセンター主事 |
| 岐 阜 県 | 堀 江 俊 子 | 永平寺町松岡公民館 館長 |
| | 勝 見 誓 司 | 若狭町三宅公民館 前館長 |
| | 林 勝 己 | 岐阜市鷺山公民館 公民館長 |
| | 服 部 敦 子 | 郡上市中央公民館 公民館専任主事 |
| | 山 下 優 子 | 郡上市八幡公民館 公民館主事 |
| | 畑 佐 百合子 | 郡上市川合公民館・八幡第二公民館 公民館専任主事 |
| | 松 山 忠 樹 | 郡上市那比公民館 公民館主事 |
| | 長谷川 光 人 | 郡上市那留公民館 公民館館長 |
| | 足 立 由 美 | 瑞浪市釜戸公民館 総括主事 |
| | 愛 知 県 | 平 井 めぐみ |
| 田 中 加代子 | | 田原市和地市民館 市民館主事 |
| 松 野 清 香 | | 田原市堀切市民館 市民館主事 |
| 中 神 富美代 | | 田原市田原南部市民館 市民館主事 |
| 富 山 県 | 笹 岡 伊希子 | 富山市立福沢公民館 公民館主事 |
| | 山 本 みゆき | 富山市立鶴坂公民館 公民館主事 |
| | 桶 谷 弘 美 | 富山市立浜黒崎公民館 公民館主事 |
| | 建 部 真 吾 | 朝日町立中央公民館 書記 |
| | 高 田 里 美 | 南砺市井口地域づくり協議会 地域指導員 |
| | 十文字 一 郎 | 上市町立白萩西部公民館 館長 |
| | 高 井 清 高 | 高岡市立成美公民館 館長 |
| | 高 木 由紀子 | 高岡市立成美公民館 事務員 |
| | 谷 保 修 二 | 高岡市立北般若公民館 館長 |
| | 定 田 真 弓 | 高岡市立定塚公民館 事務員 |
| | 島 田 真 弓 | 高岡市立東五位公民館 事務員 |

第57回東海北陸公民館大会 表彰者

石川県

笠間 智
野々市市中央公民館 館長

定免 敏彦
羽咋郡宝達志水町公民館 館長

福井県

北島 喜一
福井市和田公民館 館長

八田 真澄
鯖江市中河公民館 公民館主事

岐阜県

馬場 美佐緒
岐阜市徹明公民館 公民館主事

森 美里
本巣市糸貫公民館 施設事務員

愛知県

奥谷 しま
半田市立亀崎公民館 主事

富山県

馬場 均
魚津市上野方公民館 館長

曾根 直子
射水市片口コミュニティセンター
生涯学習推進委員



東海北陸表彰 曾根生涯学習推進委員



東海北陸表彰者

第16回富山県公民館大会表彰受賞者

優良自治公民館表彰

高岡市 高岡市五福町縄手自治公民館 館長 杉本 義彦
高岡市横越上自治公民館 館長 成瀬 一朗

永年勤続職員表彰(20年以上)

富山市 平岡 春美 富山市立西田地方公民館 主事
谷井 千秋 富山市立寒江公民館 主事
魚津市 池田 澄子 魚津市本江公民館 指導員

永年勤続職員表彰(10年以上)

富山市 酒井 和恵 富山市立小羽公民館 主事
松井 さゆり 富山市立卯花公民館 主事
廣瀬 淳子 富山市立東部公民館 主事
林 晴美 富山市立草島公民館 主事
高岡市 河原 誠一 高岡市立大滝公民館 館長
中山 光恵 高岡市立大滝公民館 指導員
矢田 陽子 高岡市立野村公民館 事務員
射水市 橋本 孝雄 大江コミュニティセンター センター長
小橋 秀次 大島コミュニティセンター 管理人
片岸 秋雄 大島コミュニティセンター 管理人
魚津市 木下 眞 魚津市本江公民館 館長
石田 百代 魚津市上中島公民館 指導員
本田 恵子 魚津市道下公民館 指導員
滑川市 花木 勲 滑川市山加積地区公民館 主事
小林 昌樹 滑川市滑川東地区公民館 主事
田口 稔 滑川市滑川東地区公民館 主事補
吉江 香織 滑川市滑川東地区公民館 指導員
黒部市 谷口 政芳 黒部市立三日市公民館 館長
柳田 紀子 黒部市立若栗公民館 館長
砺波市 岩田 伸弘 砺波市立青島公民館 主事
荒川 美佐子 砺波市立梅檀野公民館 主事
南砺市 中田 まり子 南砺市いつついし自治会 事務員
立山町 有馬 信幸 立山町立下段公民館 館長
中川 聖子 立山町立新瀬戸公民館 主事補
入善町 泉 裕子 入善町上原公民館 主事補
笹原 健一 入善町青木公民館 主事

祝 辞

富山県知事 新 田 八 朗 氏

本日、ご来賓の皆様をお迎えになり、また、多くの関係の皆様のご参加のもと「第44回全国公民館研究集会、第57回東海北陸公民館大会富山大会並びに第16回富山県公民館大会」がこのように盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。



東海・北陸地域だけではなく、遠く北海道や九州からもお越しになったと伺っております。本当によろそ富山県へおいでいただきました。また、冒頭、中西会長のお話にもありました富山県独自の新型コロナ感染拡大警報「富山アラート」を出したのは、この私でございます。ですが、その趣旨をよくご理解いただき、「感染の拡大を抑えよう、しかし社会経済活動は回していこう」と本大会のハイブリッド開催をご決断され、このリアル会場では感染対策を徹底し開催されましたこと、ご英断に心から敬意を表したいと思います。

また、今ほど表彰を受けられました皆様方には、長年にわたる公民館活動に対するご献身に、深く敬意を表し感謝申し上げます。

さて、人口減少・少子高齢化の中で、長引く新型コロナの影響等により、社会経済環境は近年大きく変化していることに加え、全国的にも地震や集中豪雨といった自然災害が多発するようになりました。

公民館には、このような日常の様々な課題の解決や防災への取組みを進めていくなど、地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進する中核的な役割が期待されているものと理解をしております。

富山県では、本年2月に、新しい富山の未来を描く「成長戦略」を策定し、その柱に、経済的な豊かさに加え、身体的・精神的・社会的にも満たされた状態である、真の幸せ「ウェルビーイング」の向上を掲げております。

お一人お一人が、様々な人や社会との「つながり」のなかで、「自分らしく」生きていることに満足でき、心豊かに幸せを実感できる「ウェルビーイング先進地域、富山」を目指しております。その上で公民館活動が果たされる役割は大きいと考えております。地域コミュニティの希薄化が言われる中で、皆様にはこの大会を契機に、一段高いステージの公民館活動を実現され、そして、ウェルビーイングに満ちた地域づくりに一層のご尽力を賜りますよう心からご期待申し上げます。

結びに、全国公民館連合会・東海北陸公民館連合会のご発展と、皆様のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。お祝いのご挨拶とさせていただきます。本日は本当におめでとうでございます。

歓迎のことば

富山市長 藤井 裕久 氏

本日、「第44回全国公民館研究集会、第57回東海北陸公民館大会富山大会並びに第16回富山県公民館大会」が全国各地から多くの皆様をお迎えし、富山市にて盛大に開催されておりますことを心よりお祝いを申し上げますとともに、富山市民を代表いたしまして心より歓迎を申し上げます。そして、長年にわたり公民館活動にご尽力され地域の絆の醸成に努め、本日表彰を受けられた皆様には、心より敬意と感謝を申し上げます。



日頃から皆様方には、それぞれの地域におかれまして、生涯学習の中核施設である公民館の運営に指導的な役割を果たされ、地域における社会教育の発展にご尽力をいただいております。改めまして心より深く感謝を申し上げます。

ご承知のとおり、近年、本格的な少子化、そして超高齢社会の到来や情報化の進展、さらにはコロナウイルス感染症、国際社会の激動、こういった様々な要因が重なりまして、人々の価値観あるいはライフスタイルが多様化しております。そういった中で地域活動の低迷や地域の連帯感の低下が一段と心配されているところでございます。

こうした課題の解決には、心の豊かさや潤いが実感できる魅力ある地域づくりが大変重要であり、生涯学習や情報・文化の拠点として、また、地域住民の皆様のふれあいと交流を広げるコミュニティ活動の拠点として、公民館の果たす役割はより一層大きくなっております。このため、富山市では、市内にあります82の市立公民館や900を超える自治公民館におきまして、ふるさとづくり活動など、多種多様な学習・活動が盛んに展開されているところでございます。

今後も市民の皆様の主体的・自主的な活動を支援する公民館へのニーズは、ますます高まるものと考えておりますが、この度、公民館の運営・活動等に携わっておられる皆様方がここに一堂に会され、研究討議されまことは、誠に意義深いことであり、その成果に大きな期待を寄せております。どうか皆様方には、これまで以上に人と人との絆を深め、支え合う豊かな地域づくりを目指して、公民館が子どもから高齢者まで、幅広い世代の方々に親しんでいただける場となるよう、一層のご尽力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

さて、富山市は、東に標高3,000メートル級の北アルプス立山連峰を仰ぎ見て、北に水深1,000メートルの「海の幸の宝庫」富山湾を配しております。皆様方にはこの2日間、富山の温かい人情、美しい自然、旬の味覚をご堪能いただき、富山県を大いに満喫して頂きたいと思っております。

終わりに、本日ご出席の皆様方のご健勝、ご活躍を心より祈念申し上げます。歓迎のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

社会教育の推進と施策の動向について

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課

課長 黄地吉隆氏

皆さん、こんにちは。文部科学省の地域学習推進課長をしております黄地と申します。どうぞよろしくお願いたします。

本日はここ富山で三つの公民館の大会が開催されますこと、本当におめでとうございます。先ほどのご挨拶の中で、「富山アラート」ということをしっかり踏まえまして、リアルの開催とともにデジタルでのリモート開催を行ったということで、大変素晴らしいなと考えております。公民館の大事なところは人と人の絆を大切につないでいくことですので、リアルでの開催は大変意義のあるものだと思っております。ここ富山は、先ほどご挨拶いただいた全国公民館連合会の中西会長の地元でもあり、公民館活動が大変盛んなところだと聞いていましたので、今日ここに来ることを非常に楽しみにしていたところです。

若干個人的なことを申し上げますと、私は富山に来るのはプライベートを含めて4回目ぐらいなのですが、冒頭のアトラクションで南砺平高校の皆さんが伝統芸能を披露しているのを拝見しまして大変懐かしい思いをいたしました。私が初めて富山に来たのが30年ほど前で、平村にあったスキー場に参ったのですが、そのときはまだ平地にこうした伝統芸能が息づいていることを知らなかったのですけれども、今日ここに来て改めてこういった素晴らしいものがあるのだなという認識を新たにしました。ぜひこうした素晴らしい芸能を次の世代にもつなげていっていただければと思いますし、まさに公民館の大きな役割の一つがこうした全国各地にある素晴らしい魅力を育て上げて次につなげていくことですので、私もしっかりそれに向けて努力していきたいと思っております。

話は変わりますが、私からは今日いくつか、最近



の動きについて参考になればということで紹介させていただければと思います。先ほど中西会長のご挨拶にありましたように、今回の大会のテーマが「公民館の新たなステージ」ですので、その参考になればと考えているところです。お時間の関係もある一方で、今日ご用意した資料が大部にわたっておりますので、できるだけポイントを絞って説明したいと考えております。

社会教育の在り方について

今日のテーマは、全部で四つのテーマです。まず第1の「社会教育の在り方について」ですが、政府全体の動きとして新しい資本主義という方向性を岸田政権にて打ち出しているところです。一言で言えば「成長と分配の好循環」ということですが、まさにその鍵を握るのが人ですので、①人への投資を一番大きな柱として掲げていこうということです。その他に②科学技術・イノベーションへの投資、③スタートアップへの投資、④GX（グリーントランスフォーメーション）とDX（デジタルトランスフォーメーション）への投資ということもありますが、いずれにしても②、③、④を行う

のは、①にあるように人です。そうなりますと、人への投資の中で一番重要な取組が教育、なにかんづく社会教育ではないかと思しますので、まさに今日の大会が、今日のテーマでもある社会教育の新たなステージに向けての第一歩になればとご期待申し上げているところです。

またその考えとしては、これまで社会課題の解決は公助による部分も大きかったのですが、今後は自助や共助といった視点も大変重要になります。そういうふうに見てみると、一人一人の能力を高める自助だけではなくて、それがつながり合って相乗効果を生み出し、社会課題を解決していくといった共助の役割も極めて重要であり、まさにこの二つを担っていくのが社会教育の使命ではないかと考えているところです。こういった観点から、国の中教審でも議論しておりまして、生涯学習分科会が先般、議論の整理を公表したところです。

先ほど新田知事のお話にもありましたように、ウェルビーイングの実現は極めて大事です。まさに富山県の方向性と国全体の方向性が同じ方向を向いて一緒に動いているということ为先ほどのご挨拶を聞いて実感したところです。ウェルビーイングを実現するに当たっては、最近のデジタル社会に対応したような社会教育の在り方はどういうものなのだろう、さらにはこういったデジタルとリアルとの融合を通じて、地域コミュニティの基盤をさらに強化する、あるいはそういった中で誰一人取り残さないような教育を行っていくことが極めて重要であります。

この四つの柱を起点に、様々な方策が取りまとめられているところです。この一つ一つについてはまた後ほどご説明しますので省略させていただければと思いますが、文科省としてもぜひこういった提言を具体化すべく、さらに検討を進めてまいりたいと考えております。

公民館をめぐる動き

第2のトピックが、「公民館をめぐる動き」です。

まさに新たなステージに向かっての一つの背景としては、デジタル化というものが大きいのではないかと考えております。われわれが日々生活していても感じるのですが、それこそ生活の隅々に至るまでデジタルの要素がかなり出てきているのではないかと思います。こういった中で、政府として「デジタル田園都市国家構想」というものを現在打ち出しているところであり、特に重点的に取り組むべき事項としてデジタルの力を活用した社会課題の解決、そのための基盤整備、それを担う人材の育成、その結果として誰一人取り残さないための取組ということで、先ほどの中教審が説明した方向性とまさに軌を一にしているものです。

こういった中で、公民館をはじめとする社会教育施設の位置付けも極めて重要であり、政府の様々な方針の中でもしっかりと取り上げられているところです。特に重要だと思うのは、デジタル田園都市国家構想基本方針の中にある「地域の取組にリアルな交流とデジタルの相乗効果が生まれ」というところがキーワードになるのではないかと考えております。そういった中で公民館についても基盤整備としてデジタル化を進めていく必要があるのですが、例えばWi-Fiの導入状況を見ますと36.5%ということで、このあたりをもう少し伸ばしていく必要があるのではないかと考えており、国としても支援方策を講じてまいりたいと考えております。

そういった中で公民館に期待される役割を簡単にまとめているところですが、むしろ具体的な事例をご紹介した方がいいのではないかと考えております。例えば千葉県の取組の例ですが、やはりデジタル化を踏まえると、一人一人にデジタルのリテラシーを身に付けていただく必要があるということで、オンラインも活用しながらデジタルデバイドの取組を行っている例もありますし、子供たちの放課後支援の場として公民館を活用している中でデジタル教材などもふんだんに活用している事例もあります。

さらには、Wi-Fiをどういうふうを活用していけば生活がより豊かになるのかといったような講座を特に高齢者を中心に開催したり、あとは対面とオン

ライン、まさに今日の会合がそうですねけれども、特に高齢者の場合、公民館にお越しいただくのがなかなか難しい場合もあろうかと思えます。そういった中ではオンラインを活用しながら健康体操や健康教室をやってみたり、こういった新しい取組も行っているところではあります。

施設面でいえば、公共施設のスマート化ということで、例えばスマートロックやフリーWi-Fi、インターネットのPCを導入した例があります。三種の神器と言っている方もいらっしゃいますけれども、例えばスマートロックに関しては、公民館施設を利用する際にこれまでは対面で受付をして、対面で鍵を借りて返すといった一連の作業が必要だったのですが、こういった流れを全てオンラインで完結できるような先進的な取組も行われています。また、デジタルを活用した新たな利用者層の開拓ということで、ホームページのアクセスを分析し、訪問してくれるユーザーの特色を踏まえた講座を開設してみたりといった例もあります。

こうした様々な例は、ぜひわれわれもいろいろなところでご紹介できればと思っております。こういった特色ある取組を全国津々浦々で進めていく観点から、来年度の概算要求でもアドバイザー事業ということで、額は若干少ないのですが要求しているところではあります。

次の話題がPFIなどの動きです。PFIというのは、要するに公共施設を造ったり管理・運営したりするときに民間の活力を導入していこうという動きであり、これを積極的に促していこうということが政府全体の方針で取り上げられています。いろいろなやり方があるのですが、最も先鋭的な例としてご紹介したいのがコンセッション方式です。時間の関係もありますので、あまり細かいところはお伝えできませんが、要するに公共施設の運営権を一定の条件下で地元の事業者などに譲渡して、維持管理をしてもらうやり方で、行政と民間がウィンウィンの関係に立つというのが一つの主眼です。PFIの導入について、実際のところ、公民館についてはそれほど例はないのですが、むしろ図書館や芸術文化施設な

どではそういった例があります。また、公民館も含めて図書館や地域交流センターのようないくつかの施設を複合的に運営している例があります。

いずれにしてもポイントは、公設公営であれ、こういったPFIの手法を使った場合であれ、住民の皆さんにとってメリットがあるかどうかというのは極めて大切なポイントです。これまでの運営方式でいいところもあれば、こういった新しい方式がいいところもありますので、それぞれいいところをうまく参考にしながら、全体として社会教育の質を高めるような視点が重要になるのではないかと考えておりますので、まずはこうした動きがあるということをご承知おきいただければと思います。

また、先ほどのデジタル化もそうなのですが、こういったPFIも含めて、様々な補助金等が、文部科学省だけでなくいろいろな国の役所にあります。このあたりはまた教育委員会事務局の方々を対象にした会合等でも紹介させていただければと考えています。

こちらのページはそれぞれの補助金の細かい部分ですので、またお時間があるときにお目通しいただければと思います。

次の話題が長寿命化計画の策定です。政府全体の方針として、社会教育施設だけでなく公共施設全体について老朽化が進んでいるということで、長寿命化計画を国全体として、あるいは個別施設ごとに各自治体で令和4年度、つまり本年度末までに作るという動きがあります。このため、公民館や図書館についても、いつまでにこういった長寿命化を図るのかという計画を作ることが各自治体に求められており、現在の全国的な状況としては策定率は89%（※講談当時の見込み）です。これを100%に高めることが重要ですので、策定に当たってはご協力いただければありがたいと考えております。

公民館をはじめとする社会教育を担う人材の在り方

第3の話題が、「公民館をはじめとする社会教育を担う人材の在り方」についてです。今回ご紹介したいのは社会教育士についてでありまして、皆様にご承知かと思いますが、社会教育の主事講習を受けた方々は社会教育士という称号を名乗れる制度が令和2年度からスタートしております。昨年度までのデータで、全国に2500人の方がいらっしゃいます。国としてもできるだけ数を増やし、いろいろな場面で活躍できるような機会をつくっていきたいと思っております。

例えば、社会教育主事の皆さんは教育委員会の事務局にいらっしゃると思うのですが、自治体によっては社会教育主事の発令がなされていないところもあると思います。ただ一方で、主事の発令を受けていなくても社会教育主事講習を受けた方はたくさんいると思いますので、せっかく身に付けた知識や能力をいろいろなところで生かしていただくために今回、社会教育士の制度を策定したところです。

例えば活躍の場としては行政・地方自治体があります。教育委員会だけでなく、地域にはまちづくり協議会や、自治体によっては教育委員会の事務委任ということで首長部局でやっている場合もあります。その場合には、これまで必ずしも社会教育を行っていなかった人たちも巻き込んだ形で、一人一人当事者意識を持っていただくという意味でのコーディネートも必要になるのではないかと思います。

それから学校現場などもあります。後ほどご紹介しますが、政府を挙げてコミュニティ・スクールを進めている最中ですので、まさに地域と学校をつなぐコーディネーター役として社会教育士の活躍の場もあるのではないかと思いますし、さらには行政の場だけではなくて企業やNPOでも、社会教育ではないかもしれませんが地域貢献、広い意味での社会貢献、様々な活動をしていますので、こういったところでも活躍の機会はあるのではないかと思います。まさに今日いらしている皆さんもぜひ

社会教育主事講習を受けられる機会があれば、こういった制度にも目を向けていただけると大変幸いです。

社会教育主事講習の中身も、先ほど申し上げた様々な社会状況を踏まえて少しずつ変えているところです。科目の構成の細かい話ですが、この中身自体も今後、例えばデジタルの要素をこの講習の中にどう取り込んでいくのかとか、できるだけ多くの方にこの講習を受けて社会教育士になっていただくためにも、先ほどから話が出ているリアルの場だけではなくてオンラインでも受けられるような仕組みも考えていきたいと思っております。また、こういった社会教育士に関する方針が政府の様々な報告書や決定の中でも取り上げられているところです。国としても、この制度を紹介するためのPR動画や特設サイトなどを設けて普及啓発を進めていきますので、それぞれの地域でも広報活動をお願いできれば大変ありがたいと思っております。

地域と学校の連携・協働の推進について

第4に、「地域と学校の連携・協働の推進について」です。釈迦に説法で大変恐縮ですが、学校や子供、地域それぞれに様々な課題があります。地域と学校が手を携えて取り組んでいくプラットフォームが、コミュニティ・スクールという取組であります。中身はもしかしたら皆様にご承知かもしれませんが、おさらいの意味も込めて基本的なところをご説明しますと、学校運営協議会というものを学校ごとに設置して、この協議会に地域の皆さんに参画していただき、学校の運営の在り方をご議論いただきます。その上で基本的な方針を承認いただいたり、運営について意見を言ってもらったり、さらには先生の任用の在り方について意見をいただいたりするような取組です。

こうすることによって地域住民が当事者意識を持って学校運営に参画していただくことがポイントですが、むしろ先生方にも当事者感を持っていただきたいのです。つまり、学校教育は社会のためにあ

るのだということで、地域社会の一員としての当事者意識を持ってもらうことが非常に大切な視点ではないかと考えております。学校運営協議会を導入していないところであっても、地域と学校がしっかり手を携えている取組をしているところがあると思います。ただ一方で、校長先生が代わった途端に取組が終わってしまったということになっても寂しいので、持続的な取組としていくためにも、制度としての学校運営協議会を導入していただくことを国全体として後押ししているところです。

これを進めることによってどういった効果があるかということで、いくつか例を紹介すると、例えば今は先生の働き方改革が大変大きな課題になっていますが、地域の皆さんと先生とで業務内容の在り方をいろいろ議論していただいて、こういう業務はやらなくていいのではないかとか、あるいはこの業務は地域で担えるからいいとか、むしろこの業務に力を入れてほしいとか、いろいろ議論して棚卸しをしていただいた結果、先生の超過勤務時間が減少した例もあります。

それから、子供たちの生徒指導の問題ということで、地域のボランティアの方に夜回りなどいろいろやってもらうことによって補導件数が激減したといった例もあります。さらには、防災活動を地域と学校で一緒に行うことによって先生や生徒の意識が変わって、地域の愛着や防災への認識も高まったという例もあります。要するに、地域コミュニティが元々しっかりしていたところはこういった取組を行うことによってさらに強化されますし、大都市圏などで地域コミュニティが希薄化しているようなところでは、この取組によって人々がまた学校に集まることになって、新しいコミュニティが再構築されるといったこともいえるのではないかと思います。

50 ページが全国のコミュニティ・スクールの導入状況なのですが、実は平成 29 年に努力義務化されました。努力義務とはどういうことかということ、教育委員会は、所管する学校ごとに「学校運営協議会を置くように努めなければならない」ということです。これを契機にすごい勢いで設置数が伸びて

いて、現在 33.3%、約 1 万 2000 の学校で導入されています。これは昨年までのデータで、今は本年度のデータを集計中ですが、さらに伸びている状況にあります。

52 ページは都道府県ごとのグラフです。これは昨年までのグラフですので、本年度のグラフはもう少ししばらくしたら公表できると思っているのですが、これまで必ずしも取組が進んでいなくても相当な伸びを示したところがかかなり出てきております。

こういった内容が政府の各方針の中でも触れられていて、まさに国家戦略としてコミュニティ・スクールを導入するとともに地域と学校の連携基盤を強化していくことが必要になっていまして、そのため後押しをまた来年度の予算要求でも国としてしっかり行っていきたいと考えています。

特にポイントは地域学校協働活動推進員ということで、これはいわばコーディネーターです。コミュニティ・スクールも一員となって参画する地域学校協働本部というものを全国各地に作っていただいているのですが、この仲立ちをするためのコーディネートをしっかり要求する方向になっています。ともすれば学校の先生が地域社会との連絡を全て行うことによってかえってコミュニティ・スクールが負担になるのではないかと指摘もあったところですので、むしろそういった連絡調整を専属で行う人をしっかり配置できるように支援していきたいと考えております。こういった取組を行うことによって、先ほど紹介しましたように先生の働き方改革も進むし、子供たちの放課後の学びの支援も進むし、さらには地域課題の解決にもつながっていくというふうに、様々な効果が期待されるところです。

これに関連して学校部活動の地域移行という動きがあります。地域移行を進めていく上ではやはり学校と地域の連携は引き続き重要になります。先ほどご紹介した地域学校協働活動も受け皿の一つと考えられるのですが、それを行うためには広域的な調整、広域的なコーディネート、あるいはスポーツや文化の人脈を持った方々にコーディネーターとして入っていただく必要もありますので、それに向

けての予算をしっかりと要求していくことになっております。

こうした中で、今までずっと学校の話ばかりしてしまっていて恐縮なのですが、学校と地域の協働活動の中に、主たるプレーヤーとしてぜひ公民館の皆さんにも入っていただきたいと思っております。例えば放課後の学びの支援ですとか、それから先ほども伝統芸能の部活動の素晴らしいアトラクションを見せていただきましたけれども、そうした活躍の場として公民館は当然あるものだと思っておりますので、ぜひ地域学校協働活動の輪に入っていただきたいと考えています。

一方で、これを進めるに当たって、進んでいるところは進んでいるのですが、まだまだというところもそれなりにありますので、普及を図っていくためには都道府県の役割が極めて重要ではないかと考えております。従って、各県にCSアドバイザーを配置していただき、この方に各市区町村の教育委員会や学校などいろいろな場に飛び回ってもらおうと考えています。それをさらに後押しするために、文科省でも各都道府県にアドバイスができるような専門的なノウハウを持った方をCSマイスターとして委

嘱しています。こういった人たちにもいろいろなところに出向いてもらって、アドバイスをしてもらって体制を整えておりますので、またご不明な点やいろいろ相談したい案件などがあれば、ぜひ私どもにご連絡いただければ、すぐにこういったCSマイスターが伺えるようにしていきたいと考えているところです。こういったCSマイスターやCSアドバイザーが現場に足を運んで、プランニングの段階から実践の段階、さらには検証を行うフォローアップの段階、それぞれにフルサポートをしていきたいと考えています。

こういった取組を全国各地に広げていくためにも、ホームページの充実ですとか、全国フォーラムを年に3回ほど行っているところです。これはウェブでも公開しますので、もしご関心があればホームページなどをのぞいていただければと思います。

短い時間ではありますが、私からのご説明は以上でございます。大会はまた明日も各分科会に分かれて行われると伺っておりますが、ぜひ今回の大会が皆さんにとって実りあるものになるように大変期待しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。



福井県和田公民館の紹介



会場の様子

とやまの自然と文学

～近現代文学（散文）を中心として～

富山県射水市大島絵本館

館長 立野 幸雄 氏

はじめに

皆さん、こんにちは。よく富山県においでくださいました。どうもありがとうございます。

ご紹介いただきました大島絵本館の立野と申します。今日は「とやまの自然と文学」というお話をしたいと思います。

富山の文学の土壌

皆さんの中には「文学というのは俺はちょっと」という方もおられるかもしれませんが、実は富山の文学作品の中には、映画化されて今まで皆さんがご覧になったものがたくさんあります。例えば黒部第四発電所（くろよん）を舞台にした『黒部の太陽』は本本正次さんの作品です。それから、剣岳を測量しようとした測量隊の勇姿を描いた新田次郎さんの『剣岳・点の記』もご覧になった方がおありなのではないでしょうか。そして「少年時代」というのもありました。これは藤子不二雄^④さんの作品で、篠田正浩監督が映画化され、井上陽水さんの歌もヒットしましたね。これは柏原兵三さんの『長い道』を映画化したものです。これもご覧になられた方がいると思います。

それから今日は9月9日ですが、1・2・3日は富山の八尾という所で「越中おわら節」があり「おわら風の盆」というものがあります。その風の盆での淡い恋を描いた高橋治さんの『風の盆恋歌』という作品も映画化されたり、舞台化されたり、テレビドラマになったりもしました。これもご覧になった方がおありだと思います。



そしてもう一つは、宮本輝さんの芥川賞を受賞した『螢川』という作品も映画化されています。ここは県民会館ですが、横に小さな川が流れています。あれは松川というのですが、松川を川下の方に5分ぐらい歩くと、いたち川という川と合流します。そこに『螢川』の文学碑が建っています。その文学碑をいたち川の上の方へ上がっていくと、『螢川』の舞台になっています。このように、何人かの方は富山の文学はよく映画にもなっているのだなということにお気づきになると思うのです。

そこで、文学とは何かというと「学」が付くから難しいように思いますが、文学には人々の日々の生活や営みが描かれています。動物たちの生活などは書いてありませんよね。人間の営みです。心も含めて、人間たちの日々の姿が書いてあります。では、日々の営みや生活はどんな形で描かれているかというと、住んでいる土地の自然、そこに住んでいるときに長く伝わっている周りの文化、自然と文化のようなもの、その環境によって生活が築かれていき、その生活を作品にしています。とするならば、自然と文化がものすごく彩りに富んでいれば、当然そこ

から描かれる作品はいろいろなものが出てくると思うのです。富山県の文学作品はそんな特徴を持っているのです。

豊かな自然 ～立山から富山湾の高低差・四千メートル～

例えば、富山県で一番高い所はどこかというと立山連峰ですよね。3015mを最高峰として3000m級の山々が富山にはそびえています。それから3000mの山から一気に下って平野部になり、そしてどどどと日本海に入ります。この日本海は水深が平均1000mあり、深い所で1200mあります。そうすると、高低差が4000mあります。そして、先ほど述べましたように富山はこういう地形をしていますので、住んでいる環境によって生まれてくる作品があるというならば、山ならば山に住む人たちを中心とする、山岳を中心舞台とする作品が生まれてきています。

そしてもう一つ、山から平野に行く谷間ですね。山里、谷間、山麓に住む人たち、山麓特有の生活から生まれてくる作品があります。そして、山麓から豊かな富山平野があります。平野部が続いております。すると、農村を中心とする平野部の文学作品も生まれてきます。そして、やがてここに富山市、高岡市など様々な形の市街地があります。いわゆる町の文化を中心とした文学作品も生まれてきています。その他に、海の方に参りますと、海岸部、そして海自体を舞台とする文学作品も生まれてきています。

このように富山は、今も申したように山岳、それから谷間、農村、市街地、海岸、海というふうにそれぞれ大きく分かれていますので、そこから発生する文学作品もたくさんあることになります。つまり、それぞれの生活があって、それぞれの生活の特徴を備えた多様な文学作品が実は富山にはあります。

具体的なこととお話ししますと、皆さんの中には「俺たちの県にもそういうところがあるし、別に富山だけではないのではないか」とおっしゃる方がい

ます。では、ちょっと違うことを申しますと、実は立山を中心として、海までに富山には何本もの川が流れています。立山を中心とする立山水系、立山を源とする川のことについてちょっとお話ししますと、まず皆さんの中で東京の方から新潟を通過された方は、新潟から黒部、魚津、滑川、富山と通ると幾つかの川がありますが、その川は立山から流れてきます。立山水系で代表的なものでは、早月川と片貝川というのがあります。

早月川というのは、立山の上から日本海までどれくらいの長さ、流程があるかということと大体27kmです。同じように片貝川も立山の上から日本海に流れてきます。その長さ、流程は20kmです。でも、皆さんは20km、27kmといってもぴんと来ないでしょう。例えば皆さまの地元の川と比較するとよく分かるのです。例えば手取川は72kmです。九頭竜川は116km、長良川は166km。そして富士川は128kmです。これを見ても非常に短いことが分かりますね。

もっと端的に見ます。新潟と富山との県境に朝日町があります。そこから富山市まで41～42kmあります。反対に金沢方面では、石川県境の倶利伽羅から富山市まで同じく41～42kmあります。とすると、先ほど申しました早月川や片貝川は20kmとか27kmです。つまり、県境から大体半分ぐらいの距離です。それが川の長さです。新幹線ならば、この距離は大体10分程度ですよ。その川が立山の上から一気に富山湾へ流れ出てきます。一気にいっても、短いだけかということと実は角度があるのです。どんな角度かということ、例えば富山の早月川の平均傾度は8.3%、片貝川の平均傾度は8.5%です。

でも、8.3%とか8.5%というのはどういうことなのか、分からない方は多いと思います。車に乗っていると、坂道の道路標識がありますよね。坂道の道路標識には10%の勾配とか20%の勾配と書いてありますが、あれはどういう意味合いがお分かりになりますか？10%の勾配といいますが、100m進むと高さが10m上がるのが10%です。ですから、川の

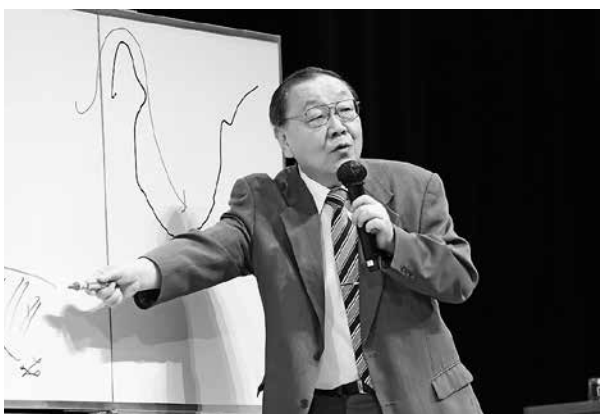
傾度が8.3%とか8.5%というと、どれくらいの急斜面かということがお分かりになると思うのです。

実は明治時代、富山県の立山水系に治水工事に来た外国人がこの川の傾斜を見て「これは川ではない。滝だ」と言ったという話が残っています。そうですね。皆さんが国外に行くとお分かりになるように、例えばお手元の資料にも書きましたように、セーナ川は780km ぐらいあります。ドナウ川に至っては2850km あります。こんな川から見ると、27km とか20km なんて、川ではありませんよね。という感じで、実は富山はこのような形の斜面で、立山の上流から一気に川がものすごい勢いで富山湾に流れ込んでいます。

もう一つお考えになってほしいのですが、一気に流れ込んでくるということは、立山というのは急峻な山ですので、山にある養分が絶えず一気に富山湾に流れ込んできているということです。山際の養分が川に乗って湾に流れ込むのです。その湾はどんな湾かという、魚が極めて育つということです。

では、この湾自身はどういう湾かといいますと、富山湾は先ほど申しましたように、大体平均して1000m ぐらいの水深で、深い所で1200m ぐらいあります。日本には、深い湾は富山湾を含めてあと二つあります。それはどこかといいますと、静岡県駿河湾と神奈川県相模湾です。駿河湾が2500m、相模湾が1500m です。

富山湾はこのようにものすごく深い海です。下手な絵をまた描かせていただきますが…これは能登半



富山の豊かな自然の説明

島です。富山湾は北の方にあるから寒いと思うかもしれませんが、実はちょっと違うのです。なぜかという、富山湾に直接流れ込んできている海流があります。その海流は能登をぐるっと回って、富山湾に入ってきます。それは何かというと、対馬暖流です。南からの暖流が富山湾に直接流れ込んできています。

そして、富山湾から少し遠いのですが、はるか日本海の中央にはシベリアからリマン海流という寒流が流れてきています。そしてもう一つ、富山湾は非常に深いのですが、富山湾の海面下300m に日本海固有水流というものがあります。日本海固有水流というのはものすごく冷たい水です。俗にいう深層水が水深300m に溜まっています。これはどんなことがいえるかという、富山湾には対馬暖流に乗ってやって来るいわゆる暖流系の魚、そして深層水を含む冷たい水に住む寒流系の魚、そしてたまに日本海のリマン海流から紛れ込んでくる寒流系の魚も入ります。そしてもう一つ、深い所で1000m ぐらいですから、1000m の所にいる深海魚もおります。そしてどの海でも取れる沿岸魚がいます。富山湾というのはそのようにして、魚としては沿岸魚、深海魚、それから暖流系、冷水系の魚たちが生息しています。

日本海には魚の種類が何種類ぐらいいると思いますか？ 大体700～800種類魚がいるといわれています。そのうち、富山湾には500種類います。私の友人も言うのですが、富山に来る人は最近やたらと「のどぐろがうまいのか」と聞いてきます。富山に魚はのどぐろしかいないようなことを言うのですが、とんでもありません。魚が500種類いるのですから、魚はものすごく豊かです。なぜ豊かなのかというと、先ほど言いましたように寒流の影響もありますし、立山山岳地帯の森林の養分が絶えず富山湾に早い段階で注ぎ込んでいます。そして、富山湾は深い一つのたまり水のような形になっていますので、富山湾は多くの人から「天然のいけす」といわれています。ですから、皆さん今日はぜひ富山で魚をお食べください。昨日お食べになった方もおられるか

もしれませんが、魚が非常に美味しい所です。

私の話になりますが、小さい頃によく祖父と一緒に町内の銭湯に行って、風呂上りに腹が減るので、町内のすし屋に行きました。寿司を1口か2口入れて帰るのです。そのときに、すし屋の年配のマスターが「今はともかく、昔はよく来たのだよ」とよく言ったものです。「何が来たのですか」と言うと、「富山にはたくさんの魚がいるから、全国から修業のために富山にやって来て、富山でネタの修業をした後、それぞれの国へ帰ってすし屋を始めたものだよ」と自慢していました。それくらい昔は多くのすし職人たちが富山にやって来ていました。私は別に魚屋とは関係ありませんけれども、魚をお試しく下さい。こんな形で富山湾は「天然のいけす」であり、魚が非常にたくさんあります。

実は海の関係で、富山の天候について富山の方たちは「私たちは北国にいるから、寒い、寒い」とおっしゃるのですが、本当に寒い所からいらっしゃる方は、富山で冬を越すと「おやっ」と思われるのです。なぜかという、先ほどお話ししたように、富山というのは対馬暖流が流れてきています。暖流が湾に入ってきますので、富山の気候は全体的にそんなに寒くないのです。富山は都市部で2月の平均気温が大体2.5～3℃ぐらいです。最低でマイナス0.1℃ぐらいです。今年の冬の富山はちょっと寒かったのですが、平均するとそうなります。その点、長野市などは2月の平均気温がマイナス0.6℃～マイナス4度ぐらいで、寒いですね。

富山は雪が降りますが、富山は暖かいですから、水を含んでいてベシヤベシヤ雪です。「ベシヤベシヤ」というのは方言です。お分かりになりますか？でも長野や、特に寒い北海道などに行くと、乾いていて寒いから雪がさらさらですね。ですから、結構寒いと思っているけれども案外富山は暖かいです。

それからもう一つついでですが、私が大学生のとき京都で下宿していたのですが、家から季節ごとに、果物が採れたというので送ってくるのです。梨を送ってきて下宿の仲間たちに配ったら、今度は林檎

を送ってくるので、また林檎を下宿の者たちに配ります。すると、下宿生たちは「お前のところは梨と林檎を送ってくるけど、採れるのか」と言うのです。私達にすれば当たり前です。現在でも富山は梨栽培が盛んで、富山市の山手の方に行くと梨園がたくさんあります。魚津方面に行くと林檎栽培が盛んです。今でこそいろいろな形で年中どこの地域でも食べるようになりましたが、林檎の栽培というのは富山県が日本の南限です。林檎がうまく作れる南の一番端です。梨の栽培は、富山県が日本の北限です。端と端ですから、両方が食べられるわけです。

多様な文化

～日本の東西文化の共存圏～

そういう形で見ますと、今度は食べ物で、皆さんは家に帰って例えば麺類を食べようと思うと、すぐに思い浮かぶ麺類は何ですか？私は高校生のときまで、家で昼に何を食べようかな、麺類を食べるなら、うどんにしようかな、そばにしようかなと考えていました。そして京都に行くと、今は違うかもしれませんが、学食や周りの店でやたらと多かったのはうどんです。「あれっ、うどんが多いのだな」と思っていて、そのうちに今度は東京に行って学食に入ると、やたらに多いのはそばです。「あれっ」と思いました。とすると、もちろんご存じのように関西はうどん文化圏ですよ。それから関東はそば文化圏ですよ。富山はそばとうどんが入り乱れています。

それから、お正月になると皆さんお雑煮を食べますね。お雑煮の餅はどんな形ですか？丸い餅ですか、それとも四角の餅ですか、どっちですか？丸い餅はどちらかというに関西圏に多いですし、四角い餅は関東圏ですよ。古典の世界で見ると、餅というのは角がないようにということで、角を切って丸いのです。丸餅が原型です。それが、時代が経って江戸時代までになると、関西よりも関東の方に人口が増えたので、雑煮の餅を作るにしても、いちいち角を切っていたら大変だということで、角を切らずに四角のものを出しました。それで四角餅が多くなっ

てきました。富山は、ところによって丸餅、ところによって四角い餅が残っているのです。

この話で何が言いたいかというと、富山はある面において、魚や農作物も含めて自然の中において豊かな形の食生活ができる所なのです。そして、文化的にも食べ物の特徴から見ますと、東の文化、西の文化が入り混じったような形になっています。そうすると、富山の文学作品というのは先ほど言いましたように、地域によって山の方の生活、そして谷の方の生活、平野、町、海岸、それに加えて文化的には、関東の文化、関西の文化が入り混じった形の文化ができあがっています。つまり、ものすごく入りくんだ形の生活様式がところどころに生まれています。とすると、そこから生まれてくる文学作品は一樣なものではなく、いろいろな形のものになっています。こんな形で、最初に富山の自然と文学ということを少し頭に入れておいてください。

この後しばらくして皆さんにDVDを見ていただくので、もう少しだけお話を続けていきたいと思えます。

このように富山はある面において、皆さんの県も含めてこんな特徴はあるかもしれませんが、日本列島の真ん中にあるので、食物の面においても、文化の面においても、非常に入り混じっています。別の見方をすれば、本人の選び方によってどちらでも取れるような、ある面において豊かなところがあります。そして変な言い方ですが、文学作品は豊か過ぎても貧し過ぎてもなかなか大作は生まれてきません。富山の文学作品があまり皆さんに知られていないのは、そんなところから割と激しい形のハングリー精神のようなものがないというところから想像力を膨らませて大作へと行かないのかもしれませんが、まだあることはあるのです。

近・現代以前の主な文学作品

ということで、あと5分ぐらいで簡単に古代から近・現代に至るまでを少しお話ししたいと思います。最初に資料をご覧ください。富山の文学の上代、

近・現代以前の文学作品というのがあります。

まず富山の上代です。上代は、富山には大伴家持という『万葉集』を作った人が越中守として5年間住んでいました。5年間住んでいますから、大伴家持が詠った越中の歌が結構たくさん残っています。越中万葉歌330首、越中国の歌4首、能登国の歌3首ということで、『万葉集』の中から広く富山の昔のことを知ることができます。富山は『万葉集』が盛んなのです。富山市よりも高岡市の方が『万葉集』が盛んで、高岡のお城の中で昼夜構わず『万葉集』の歌を全部希望者が詠み上げるという日もあるのです。それから、小学生・中学生は学校で「万葉かるた」というのをやっています。『万葉集』に非常に熱心です。

それから、皆さん立山地獄というのをご存じですか？実は平安の昔から中世まで、日本の民衆の信仰の一つとして、死んだらどこへ行くのかという素朴な質問があったわけですが、一番多く言われたのは、死んだら越中国立山の奥の地獄谷に落ちるのだという信仰が根強くあったのです。嘘だろうとおっしゃる方もおられますが、皆さんのお手元に書いてありますように、そこに説話集というものがあります。当時の噂話やエピソードや有名な話をたくさん集めたものを説話集といいます。その説話集の『本朝法華験記』の中に、立山地獄を書いたものが1話載っています。

それから、『今昔物語』があります。これは中世の日本を網羅した有名なエピソード・逸話・伝説のようなものを集めた説話集です。その中に、越中の地獄谷に行くと亡者に会えるという話が3話載っています。皆さんは「たった3話ぐらいで」とおっしゃるかもしれませんが、日本全国の様々な噂話や伝説を網羅している中から3話挙げてあるということは、よほどその話が浸透しているということなのです。だから皆さん、富山に来たら気を付けてください。怪我でもされたら大変です。なぜかという、立山のすぐそこに地獄があるからです。あっという間に地獄へストンと落ちますので、怪我をなさらないように。富山の人たちは長い間、間近にある地獄

へよく行ったものではないかなと思うのですが、地獄谷信仰が有名なのです。これがずっと文学作品の中にも流れています。

それから、中古に行きますと、後醍醐天皇の子の宗良（むねよし）親王、あるいは「もりながしんのう」と読む方もおられますが、宗良親王が南朝方の武将として富山県に3年ぐらいおられました。この方は有名な歌詠みです。この方が作った『新葉集和歌集』というのがあります。南朝ですので勅撰和歌集になっていませんが、それに準ずるものです。それから、本人が作った私家集、個人の和歌集である『李花集』に、越中にいたときの歌がたくさん残っています。

そして、謡曲があります。謡曲はお能の原本のようなものだと思っていただければいいのかもしれませんが。謡曲の中に「善知鳥（うとう）」というのがあります。これも立山地獄を扱っています。立山にやって来たお坊さんが帰るときに、ふと目の前に亡霊が出てきます。「私は立山地獄に落ちた者だ。私は陸奥国外ヶ浜の獵師だったが、たくさんの生き物を殺したので、ここに落ちているのだ。どうぞ私のことを家族に伝えてくれ。私の後生を祈ってくれ」と言うので、片袖を破って僧に託し、僧はそれを持っていくという話を基にした有名な謡曲なのですが、そうしたのも立山地獄を基にしています。その他『万葉集』にある「多祜の藤」を基にした「藤」という謡曲も作られています。

そして、軍記物があります。皆さんご存じの『平家物語』で、壇ノ浦の合戦における平家滅亡を語ったのと同じような悲哀に満ちたりズムで書いているのが、『太平記』の「越中守護自害事付怨霊事」です。これは北条氏が滅亡するときに、北条一門の越中守護名越時有という人が射水で一族もろとも亡くなるわけです。そのときのありさまを切実に書いています。これは『平家物語』の壇ノ浦での平家滅亡に準ずるぐらいの悲しい物語です。

江戸時代になりますと、俳諧も盛んになりますが、時間がなくて近・現代以前の作品に関してはこれだけにいたします。

近・現代の主な文学作品

それでは、近・現代の文学に参ります。近・現代の文学は、私が話していてもそんなにイメージが湧かないと思うのです。私が図書館にいた頃に富山県民カレッジさんと提携して作った「越中文学散歩」というDVDがありますので、それを今からご覧になっていただきます。これは第8回全国地域映像コンクールでグランプリを取りました。これによってイメージがもっと湧くと思うので、まずそれをご覧になっていただきたいと思います。それから、時間がございましたら補足説明をしたいと思います。

— DVD映像 <越中文学散歩 ふるさとの作家が綴るとやま> —



DVD映像

皆さん、いかがでしたでしょうか。映像で捉えるとまた違った形のイメージが湧いてまいります。このように、今取り上げた作品も代表的なものが幾つかあるのですが、皆さまのお手元の資料にも近・現代の文学という形で、先ほどお話ししましたようにある程度、海や山、それから市街や生活・風習といったような部門別に分けて作品を取り上げてあります。これで全部ではないのです。これは割と私の偏見もあるのですけれども、ピックアップしたものです。作品はまだたくさんあるのです。

その中で特にこの分野について読みたいと思われる方で、「こんなにたくさんあるのに、どれを読めばいいのか」と思われる方がおられると思うので

す。それには、実は皆さまの資料の下のところに薄く破線を引いてあります。この破線の作品が、その部門の中でお読みになればいいのではないかというものをピックアップしたものです。たくさん分野がありますので、富山においでになって、富山の関わりがあるものは、というときには、こういう部門の中から一つお選びいただければいいと思います。

変な話ですけども、私は酒が好きなので酒の話を書きますが、地酒というのがありますね。地酒というのは、その土地にいてその土地の様々な食べ物と一緒に飲むと一段と美味しく、そして食べ物が美味しくなるのです。ですから、富山に来て何かというときには、この中の短編でもいいですから1冊ぐらいお読みになれば、富山というイメージがずっと残ると思います。

富山にゆかりの芥川賞・直木賞作家

それから、最後になりますけれども、最近の富山の作品という言い方で皆さまの資料4ページにありますが、最近いろいろと有名になっております、芥川賞・直木賞の富山県関係者について述べたいと思います。

まず芥川賞ですけども、最初は古くなりますが、昭和26年の堀田善衛さんの『広場の孤独』というのがあります。これは富山とはあまり関係がありません。堀田さんは高岡市の生まれで、そこを舞台にしたような作品も幾つか書いております。それは資料2ページに堀田さんの作品として幾つか載っていますので、ご興味のある方はどうぞお読みください。

それから、柏原兵三さんのお父さんが入善町の出身なもので、そのお父さんのことを念頭に置いて書いたものも結構多くあります。昭和42年『徳山道助の帰郷』というのが彼の芥川賞作品ですが、これは富山とはあまり関係ありません。

富山に関係するのは、先ほど申しましたように『長い道』という作品があります。これが「少年時代」の原作です。藤子不二雄[Ⓐ]さんがこれを読んで感動したわけです。実は藤子さんは隣町の朝日町に

戦争のとき疎開していたのです。そして中学校のときに、同じような形で周りの人たちから、いじめという語弊がありますが、何かそういう寂しい思いをしたもので、この『長い道』を読んで感動して、それを「少年時代」という漫画にしました。最初は不評だったのですが、そのうち多くの人たちに愛されて、それによって篠田正浩さんが映画化して、井上陽水さんが歌を歌ってヒットしました。そういう作品を書いております。

それから、昭和52年に宮本輝さんが『螢川』という作品を書いております。『螢川』で感動なさった方もおられると思うのですが、先ほど申したように、ここから5分ぐらい歩くと松川という川があります。松川というのは、金沢方面から富山へおいでになったとき、富山市に入る手前に神通川という大きな川があります。神通川というのは、昔からあそこにあった川ではないのです。どこにあったかという、実はこの会館の横に松川というのがあり、松川から200mという、ここも含みます。明治時代の中ごろにここを流れていた神通川を埋め立てて、向こうの方の川筋を変えたのです。皆さんがおられる場所は、江戸時代には完全に川底でした。ですので、その川底は誰も買いませんので、そこを埋め立てて、その後に県庁や市役所などを建てたので、一直線ではなく川の流れて沿ってそうした公共の建物が建っているわけです。

その松川から5分ぐらい歩いた所にいたち川があります。そのいたち川の川筋は、春になりますと桜の花が咲いてきれいな所なのですけれども、そこを少しぶらぶら歩けば、この小説の雰囲気がよく出てくると思います。そして現在、宮本輝さんは『田園発 港行き自転車』という作品で、富山から滑川の所も書いております。その思いもこのところから出てきております。

それから、昭和59年に木崎さと子さんが『青桐』という、砺波の農村地帯のを中心にした小説で芥川賞を取りました。

令和2年には高山羽根子さんが『首里の馬』という作品で芥川賞を取りました。これは富山と全く

関係ありません。が、高山さん自身は富山に生まれたので、富山では騒いでいます。富山ゆかりの作家というのですが、富山ゆかりというのは何かと私はいつも疑問に思うのです。生まれただけでは富山出身ではないと思うのですが、富山ゆかりという形で今は言っています。

直木賞では、源氏鶏太さんがおられます。先ほど申し上げた、いたち川沿いに源氏鶏太さんの生家跡の文学碑が建っています。歩いてここから15分ぐらいでしょうか。ご希望の方はご覧ください。その後、野村尚吾さんという人もおられます。直木賞候補になった方です。

それから、恩田陸さんは直木賞を取られました。恩田陸さんは小学2年から5年まで富山市におられました。ここからしばらく立山の方に向かうと富山市立図書館というのがあります。あの付近に彼女は3年間ぐらい住んでおりました。私もその辺に住んでおりますので、もしかしたら会っていたのではないかと思いながら夢を託しております。

そういう形で幾つかあります。もしその他の文学にご興味がある方は、県民会館から松川沿いに歩いていかれると、5分ぐらいで右手の方に高志の国文学館という文学館があります。ここに富山関係の文学作品を含めて紹介がありますので、それもまたご興味のある方はご覧ください。

皆さん、今日はDVDばかりで申し訳ないのですが、けれども、もっと私は話したいのです。まだまだあるのです。地酒でも飲みながらじっくりと一晩かけて話したいという気持ちがあるのです。

それほど富山の文学はあるのですが、皆さまはお疲れでしょうし、時間も来ましたので、誠に申し訳ございませんけれども、残念でございますが、今日はこれぐらいにさせていただきたいと思います。皆さんご清聴ありがとうございました。

分科会記録

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 第1分科会 | 公民館等の管理・運営 パレブラン高志会館カルチャーホール |
| 第2分科会 | 地域づくりと公民館 サンシップとやま福祉ホール |
| 第3分科会 | 家庭・学校・地域との連携 北日本新聞ホール |
| 第4分科会 | ポストコロナの公民館 富山県民会館304号室 |
| 第5分科会 | 新たな時代の公民館 富山県民会館401号室 |

第44回全国公民館研究集会・第57回東海北陸公民館大会富山大会 分科会参加者数

() : Zoom参加者【内数】

| | 分科会 | | | | | 全体会 のみ | 参加総数 |
|-----|--------------|------------------|---------------|-----------------|-----------------|-----------|------------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | 会場収容総数 |
| | 高志会館 276名 | サンシップとやま 300名 | 北日本新聞 246名 | 県民会館304 210名 | 県民会館401 200名 | | 1232名 |
| 石川県 | 18(13) | 42(21) | 5(1) | 31(9) | 74(26) | 36(7) | 206(77) |
| 岐阜県 | 11(6) | 13(2) | 7 | 0 | 2(1) | 0 | 33(9) |
| 福井県 | 11(2) | 30 | 13(1) | 14 | 11(3) | 7 | 86(6) |
| 愛知県 | 6 | 5 | 11(1) | 2 | 0 | 0 | 24(1) |
| 三重県 | 3(1) | 2(1) | 0 | 4(3) | 1(1) | 0 | 10(6) |
| 新潟県 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 長野県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 秋田県 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 福岡県 | 1(1) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1(1) |
| 北海道 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 東京都 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 富山県 | 94(12) | 100(7) | 120(18) | 110(21) | 85(13) | 149(21) | 658(92) |
| 計 | 146(35) | 193(31) | 157(21) | 161(33) | 173(44) | 198(28) | 1,028(192) |

参加申込者総数 1,028名(内 Zoom参加者 192名)
 県外 370名(内 Zoom参加者 100名)
 県内 658名(内 Zoom参加者 92名)

第1分科会 公民館等の管理・運営

パレブラン高志会館カルチャーホール

主 題

管理運営を巡る動きと公民館等の在り方

協議の視点

- 新しい時代に即した公民館の管理体制
- 若い世代の参画を促す公民館運営

| | | |
|-------|----------------------------|---------|
| 助 言 者 | 富山大学地域連携推進機構生涯学習部門 副部門長 教授 | 藤 田 公仁子 |
| 司 会 者 | 岐阜県瑞穂市中央公民館 館長 | 小 栗 茂 |
| 発 表 者 | 岐阜県多治見市根本交流センター 所長 | 塚 本 景 子 |
| | 富山県小矢部市公民館連絡協議会 副会長 | 藤 田 一 彦 |
| 記 録 者 | 富山県砺波市立青島公民館 主事 | 岩 田 伸 弘 |
| | 富山県砺波市立雄神公民館 主事 | 齊 藤 次 子 |
| 運営責任者 | 富山県公民館連合会 理事 | 大 沼 宗 義 |
| 会場責任者 | 富山県富山市立広田公民館 館長 | 牧 野 正 史 |



発表1

ともに学び、育ちあいのできる居場所づくり

岐阜県 多治見市根本交流センター 所長 塚本 景子

1 はじめに

(1) 岐阜県東濃地方にある人口約10万7千人の多治見市。陶磁器やタイルなどの美濃焼の産地として発展し、平成19年に当時の国内最高気温（40.9度）を記録したことで知られる。

先鋭的な空間が魅力のモザイクタイルミュージアムもあります。

(2) 市内9地区に市立公民館があり、うち2館は児童館との複合施設であることから「交流センター」と称している。

(3) 自然豊かな根本地区は、JR根本駅、駅周辺に商業施設や教育機関があり、住む町として魅力的な地域であり、名古屋のベッドタウンとして知られている。平成25年4月に地域住民が待望した根本交流センターが供用を開始した。

2 取組に至る経緯

(1) 公民館と児童館の機能に加え、市の地区事務所を併設した複合施設として開館し、公民館と児童館との一括運営を行っている。

・目標は運営施設の120%有効活用

(2) 「公民館、児童館の機能を融合させて運営すること」、「あらゆる地域住民にとって価値のある施設であること」、「地域の活性化をリードする拠点施設であること」に心がける。

(3) 公民館と児童館が持つ特徴や利点を生かすことによって、世代を超えた交流事業を促進し、「ともに学び、育ちあいのできる居場所になること」を目指す。

3 事業内容

(1) 多世代交流事業を通して根本地区を「活気のある住みやすい町」にする

多世代が集いやすい交流センターにおいて、地域の子どもたちを核にした「笑顔あふれる交流機会」を創っている。



- ① 地域の総力を挙げて開催する「根本ふれあいフェスティバル」
 - ・ボランティアも大活躍
 - ・Zoomを活用し「テレフェスタねもと」のコーナーを実施
- ② 三世代が集う三ツ星ファミリー事業「ねもとあったかクリスマス会」
 - ・地域みんなで過ごす心温まるひととき
- (2) 豊かな地域資源を活かした企画で「地域愛」を育む
 - ふるさとを再発見する学習機会を企画し、地域に対する意識や愛着を育む役割を担う。
 - ① 三世代が豊かな自然を実感する「田んぼの鳥を見る会」
 - ・三世代が豊かな自然を実感する
 - ② 地元のお寺に出かけて座禅体験「子ども坐禅会」
 - ③ 根本地域の文化を継承する「紙芝居づくり・普及活動」ねもとの昔話
 - ・紙芝居からスクリーン上映の形に変更
- (3) ボランティア活動を通して「地域に居場所」をつくる
 - 地域の一員として主体的に活動する場、人々との関わりを楽しむ機会を交流センターに創る。幅広い活動とボランティアの育成に力を入れている。

・多様な人間関係が育まれる場所に

① 遊びを通じた子どもたちの活躍「ねもとレインボー☆キッズ」「プレイリーダー」

・役割に応じてオレンジ、イエロー、レッド、ブルー、グリーンの5色のチームに分ける

② 地域づくりのための「根本まちづくりプロジェクト」

・公民館が地域の拠点に 地域住民の協力 ビジョンを明確に 子どもを核とした町づくり 参加者の喜ぶ顔を想像する

➡育ちあい・学びあい



4 今後の課題

(1) アフターコロナを見据えた事業展開

屋外活動の充実、オンラインの活用を行う一方で、サークル活動に対する支援を強化する。

(2) 地域づくりのコーディネーター、地域の拠点施設としての役割

地域が求めていることを見極めながら、世代を問わず気軽に立ち寄れる居場所、活気と笑顔にあふれた交流空間になることを推進する。

発表2

児童クラブと協力した事業運営

富山県 小矢部市公民館連絡協議会 副会長 藤田 一彦

1 はじめに

小矢部市公民館連絡協議会での発表ということで藤田が話を進めるが、資料は東蟹谷（かんだ）の福江館長が準備した。

小矢部市は富山県の西部に位置し、国道8号、359号、北陸自動車道そしてあいの風富山鉄道が走っている。メルヘン建築の市としても全国的に有名で、多くの小・中学校、公民館がウエストミンスター寺院、東大安田講堂など世界的に著名な建物を模して造られている。

(1) 東蟹谷公民館は、小矢部市西部の山麓付近に位置している。付近には高速道路のインターチェンジや国道359号線などが通っており、交通の便が良い。小・中学校が近辺にあり、学校帰りに寄って行く子供もいる。

(2) 東蟹谷地区は416世帯、人口1303人、うち65歳以上は515人で、高齢化率40%となっている。また、15歳から34歳までは202人であり、10年前



と比較すると76人減少し、割合では約30%の減となっている。(令和4年4月1日現在)

2 取組に至る経緯

(1) 地区の高齢化率が高まってきたことや公民館の利用者数が少ない状況が続いていた。

(2) 平成14年に学校週5日制が施行され、子供たちを地域で育てる機運が高まったことをきっかけに、子供や親の若い世代を公民館に呼び込み、地域の活性化につなげられるよう、公民館と児童クラブが協力した事業を展開した。

3 事業内容

(1) サマーキャンプ事業

サマーキャンプは以前から児童クラブで行っていたが、熊の出没や親世代の多忙化、若者の減少などにより活動の続行が危ぶまれていた。そこで、安全性や利便性の観点から公民館と協力した活動として再出発した。1泊2日の日程で、公民館のグラウンドでテントを張ったり、講師を招いて親子が天体観測や木工体験などを行ったりしている。事前の企画打ち合わせで児童クラブが活動計画案を提示、公民館と意見交換しながら内容を決めていく。現在ではほとんどの親子が参加する夏休みの一大イベントとなっている。

(2) 三世代交流会

公民館と地区社会福祉協議会が主催の「いきいき世代交流会」に、児童クラブなどが加わり、平成29年から「三世代交流会」を開催した。参加団体合同の企画会議では地区社会福祉協議会が基本となる案を作成、児童クラブと他の協力団体からの意見を参考にしながら内容を決定していくことにしている。子供からお年寄りまで協力してケーキや昼食を作ったり、軽体操やゲームなどを一緒に行ったりし、人と人がふれあい、思いやりをもって活動する良い機会となっている。

4 今後の課題

若者やお世話をする方の減少は続いており、活動内容・方法の見直しが必要である。

(1) 負担の軽減

- ・事業の簡略化
- ・複数の団体が加わる

(2) SNSの活用

- ・LINEを使った情報提供
- ・WEB会議メディアを使って公民館の情報交流

(3) 参加者の関心を高める

- ・参加年齢の幅を広げる
- ・ドローンを使った活動

これらの取り組みを通じて新たなリーダーとなる人材の発掘・育成につなげていきたい。

5 おわりに

本日発表した東蟹谷公民館では児童クラブと良好な関係を築いてきたことで実践が可能になったのかと思う。

- ・地域の方と良好な関係を築いてきた。
- ・多くの皆さんが、地区の問題を真剣に考え取り組む思いがあった。
- ・それまでであった事業を見直し、協力することで、充実した内容にできた。

小矢部市公民館連絡協議会では、子供たちが公民館や地区の行事に参加する機会を増やすことが大人になってからも地区活動に参加する意識を養うことができ、持続可能な地域社会の発展につながると期待している。今後も多くの若い世代の皆さんや子供たちが、積極的に公民館活動に加わり、将来にわたって「地域を大切にする心」を育んでいきたい。



Zoom 配信のためのパソコン

研究討議

問（福井県 越前市吉野公民館 藤田）

根本交流センターは、複合施設であるとのことだが、市の職員と交流センターの職員との間に隔離は生じないのか。また、児童の利用状況についてはどうか。

答 地区事務所に関しては、市の職員が運営。複合施設ではあるが、施設管理は、すべて交流センターが担っている。また、公民館の職員は児童厚生員で構成されているため、公民館部分も児童センター部分も対応が可能である。児童館は児童福祉法に基づき運営（18歳まで利用可能）している。児童の利用については登録制である。昨年度は、12,130人の利用があった。

問（福井県 福井市中央公民館 坂田）

東蟹谷公民館の利用者が児童クラブとの連携で増加してきたとのことだが、コロナ禍での活動状況はどうなったのか。根本交流センターの状況についてはどうか。

答 コロナ流行直後は中止せざるを得なかったが、徐々に再開している。サマーキャンプ事業、三世代交流事業については人数制限、規模の縮小等工夫しながら継続できるように模索している。

根本交流センターは、市の指導の下、各事業の利用者を二分の一にした。飲食はせず持ち帰りにするなどし、講座などは継続できるように工夫している。

問（福井県 福井市松本公民館 下条）

中高生の公民館利用が少ない。どのように呼び込んでいるのか。

答 根本交流センターでは、利用者登録している中高生が年少児との関わりを持ち、学習支援や中学生ボランティアとして公民館を利用し続けてくれる。

東蟹谷公民館では、幼少のころから公民館行事に参加してもらうことで公民館に馴染み、愛着心が育めばよいと考える。

小矢部市公連の藪波公民館では、「川の生物調査」「ナスカの地上絵」等の高学年対象の活動をする際に、過去に経験した中高生に運営を手伝ってもらっている。

問（富山県 砺波市油田公民館 小野）

東蟹谷公民館は児童クラブとの連携事業が成功しているが、昨今、児童クラブの弱体化を感じる。

公民館としてどのように関わっているのか。

答 井戸端会議的な話し合いができる機会をつくることが重要。児童クラブの運営についての問題や悩みを共有し、時にはアドバイスをしたり、事業を共催で実施したりすることを提案する。

問（富山県 高岡市川原公民館 荒井）

子供対象の活動において、どのように安全確保しているのか。

答 根本交流センターの児童館は児童厚生員2名が見守り、野外活動では事業内容に関連する地域の団体に見守りを依頼する。

小矢部市公連の若林、正得公民館では、4年生を対象に公民館から学校に通学する2泊3日の「通学合宿」を12年間行っているが地区の交安協、児童クラブ等住民が見守りしている。

問（富山県 南砺市井波地域づくり 塚八）

少子化により地域の伝統行事の消滅を危惧している。対応のよい事例がないか。

答 根本交流センターでは地域の子供神輿が無くなっているので、センターのボランティアの子供たちが手作りの神輿で神社を練り歩くことを企画している。

問（富山県 小矢部市石動公民館 舟本）

活動へ参加する子供たちに片寄りがある。どのように対応しているか。【Zoom】

答 根本交流センターでは、投げかけをするのは親から。母親たちのグループがあり、母親の輪から子供たちの友達の輪が広がることを期待している。

小矢部市立東蟹谷公民館は学校へお知らせを配布する。子供への呼掛け、子供から子供への誘いが大切だと考えている。



Zoom参加者からの質問

助言者のまとめ

- (質疑の内容を受けて) 小矢部市の館長の方々の意思疎通ができており連携のよさに感動した。富山の公民館の強みだと思う。
- 根本交流センターの運営は、新しい時代に即した公民館の管理体制が必要とされているが、公民館、児童館、図書館の複合施設である交流センターは多機能施設の強みを活かし活動されている。施設の120%活用を目標とされ、職員さんの頑張りを感ずるが、公民館の空洞化に加え、少子化、そしてコロナ禍でもあり、持続していくには相当の努力がいると思われる。施設に図書館が併設されているのは強みである。
- 施設は行政下であり利用実績等が重視される。契約更新があり、職員の雇用についても保証されていない。活動が継続されるのかなど指定管理の危うさがある。
- 公民館の空洞化は、高校生、大学生、子育て世代が公民館を利用しないことである。それが将来にも影響してくることが危惧され、社会的排除者を生むことにもつながる。子育て世代に公民館としてエネルギーを注ぐことが大切だと思う。
- 根本交流センターでは、先輩職員が後輩職員を育てていることがうかがわれた。複合施設ではあるが地域に目を向けた活動で複合施設のモデルとなるスタイルの発表であった。
- 地域が子供を育てていく上で、富山県においては祖父母の存在が大きいと思われる。どのような兼ね合いになっているのか触れられていないが、なくてはならない存在であろうと思われる。
- 食育についての公民館活動では、福井県が活発に行っている。コロナ禍においてもできることを模索し活動されている。子供たちが地域の活動に触れることが地域の子育てにつながるものである。
- 小矢部市公連が、若者の参加を促すために公民館活動についてのアンケートを実施されたのはよい方法だと思う。
- 小矢部市の「通学合宿」について、歴史があり継続されている。地域が子供を知り、子供が地域に支えられ、子供が地域に寄り添って、地域も子供に寄り添う。地域が子供を育てる活動である。映像や活字で伝えられないことがある。心と心、人間と人間とがつながり合うことがもっとも重要だと思われる。
- 人と人のつながりの希薄さ、そしてコロナ禍、今の時代に「集う」「学ぶ」「結ぶ」活動は公民館にしかできない。子供の声が聞こえるまちづくりを目指してほしい。
- 人生100年時代といわれるが、公民館は人生のプラットフォームとして、学びの場、つながりの場、フェイス to フェイスの場、地域の身近な場となってほしい。
- デジタル化が進んでいるが、公民館としても情報交換等様々な場面でうまく利用しながら対応していけたらと思う。
- 学校と地域住民等が力を合わせ取組むコミュニティースクールについては、まずは公民館を知ってもらうこと、そして働きかけることが重要である。学校はフォーマル教育であり公民館はノーフォーマル教育である。
- 公民館を知ってもらうこと、来てもらうこと、踏み入れてもらうことから始め、そして仲間づくりをしてもらうことが大切であり、空洞化をくい止めることになる。
- 「公民館大好き人間」を増やしてほしい。これからも公民館を盛り立てていてもらいたい。皆さんの活動に期待し、エールを送りたい。



藤田氏

第2分科会 地域づくりと公民館

サンシップとやま福祉ホール

主 題

地域コミュニティの拠点としての公民館の役割

協議の視点

- 地域の各種団体との連携
- まちづくり・人づくりの拠点

| | | |
|-------|------------------------------------------------|---------------|
| 助言者 | 富山県氷見市公民館連絡協議会 副会長 | 河上昌俊 |
| 司会者 | 富山県富山市公民館連絡協議会 副会長 | 堀江庄一 |
| 発表者 | 富山県射水市金山コミュニティセンター 生涯学習推進委員 富山県 氷見市阿尾公民館 館長 | 松原美砂 濱本純雄 |
| 記録者 | 富山県射水市生涯学習・スポーツ課 主事 富山県氷見市中央公民館 指導員 | 上田奈都美 鈴木瑞磨 |
| 運営責任者 | 富山県公民館連合会 理事 | 岡本昭彦 |
| 会場責任者 | 富山市立浜黒崎公民館 館長 | 五十嵐邦彦 |



発表1 様々な垣根をこえた対話の創造—地域課題の解決に向けて—

富山県 射水市金山コミュニティセンター 生涯学習推進委員 松原美砂

1 はじめに

(1) 射水市金山地区の概要

金山地区は射水市南部の丘陵地に位置し、514世帯1,385人（R4.5.2現在）が暮らす。地区内に北陸自動車道のインターチェンジがあり、富山空港や北陸新幹線が発着する富山駅、新高岡駅までは車で20分～30分程度。車で移動に便利な場所である。また、標高100m以下の丘陵に囲まれており、夏には蛍が飛び交い、冬には白鳥が飛来する自然豊かな地域である。かつては鴨猟と松茸が有名だったが、猟師の高齢化や里山の荒廃により衰退しつつある。住民の多くは地区外で就労し、兼業で農業を営んでいる。地区内には、6つの町内会があり、人口減少は著しいが、移住世帯も少なからずある。

(2) 金山コミュニティセンターの現状と課題

地域振興会が運営し、生涯学習や地域活動の拠点である。地域振興会の目標である「元気で活気あふれる金山地域づくり」に向け、地域振興会や社会福祉協議会等と日頃より連携し、様々な事業に取り組んでいる。各団体の活動は活発だが、活動の中心を担う住民の高齢化と固定化が進んでいる。学生や子育てを終えた世代、移住者など地域との関わりが希薄な住民も多い。

2 取組に至る経過

(1) 令和3年度富山県公民館活動研究委嘱事業の受嘱と研究委員の選定

様々な事業の活動の中心は70代の方が多く、同じ方が何役も担っておられた。事業受嘱を契機に、若い世代の方に研究委員になってもらえるよう声掛けを行い、センター職員に加え地区内で役員や委員を務める40代・50代の男女、地域振興会や社会



福祉協会等との調整役、地区外に居住するファシリテーターが委員となった。

(2) 研究主題の決定

地域住民が地域の魅力を再発見するとともに、地域の課題を共有し、その解決に主体的に参加するきっかけをワークショップを通じて創造することをねらいとした。その際、世代、町内会、性別、職業、出身地など様々な垣根をこえた対話の場を創ることとし、表題を研究主題とした。

3 事業内容

(1) ワークショップの開催

(地域を活動拠点としている里山保全団体会員が多数参加)

計画段階では、ワークショップは2回の開催を予定していた。しかし、参加者からの要望で3回目を開催した。

① Part1:未来を描く (R3.9)

- ・金山の良さを探求し、金山の理想像を追求

② Part2:未来を創る (R3.11)

- ・目指す金山のキャッチコピーを創り、個人が取組を決定

③ Part3:その後どうなった?さらにどうしよう?(R4.2)

- ・個人の取組を紹介、周囲を巻き込むためのアイデア、応援する仕組みについて意見交換

(2) オンライン上の掲示板の活用

(社会状況や個人的背景への配慮として)

① 研究委員用 Padlet

- ・備忘録や情報共有、意見交換

② 広報用 Padlet

- ・住民や金山地区に関心のある人に向けて研究委嘱事業の情報発信

(3) その後の取組

Part3 参加者の提案を受け、コミュニティセンター入口に地区住民が発信する情報掲示板を設置(R4.3)、想いをもつ住民の活動を応援するプラットフォームとして生涯学習サロン開催(R4.4)

4 今後の課題

ファシリテーターによる中立的な進行により、当初のねらいを達成し、目指す金山づくりに向けて



スタートを切れた一方、参加者は限定的であった。住民の特徴である控えめさや包容力等を尊重しながら、対話に加わる仕掛けと継続のための仕組みをつくること、この成果をこれまでの活動に波及させ住民同士、団体間のつながりを更に広げ深めることなどが課題である。

今後も住民が願う未来実現のために対話を続ける姿勢を保ち、できることから行動する「ますます元気でさらに活気あふれる金山地域づくり」に取り組んでいきたい。

発表2

持続可能な公民館活動の在り方

富山県 氷見市阿尾公民館 館長 濱本純雄

1 はじめに

氷見市は、「世界一美しい湾クラブ」に加盟する富山湾に面しており、冬から春にかけての空気が澄み渡る晴れた日には、標高 3,000m 級の山々が連なる雄大な立山連峰を望むことができる。また、定置網発祥の地の一つであり、その網で獲れる寒ぶりは全国ブランドとして有名である。さらに、物販・飲食施設「ひみ番屋街」には、年間 124 万人が訪れている。

歴史面では、全長 107m の柳田布尾山古墳、国内初の洞窟遺跡の大境洞窟住居跡、日本海側有数



の貝塚朝日貝塚等、国指定の史跡がある。万葉集の歌人大伴家持の歌碑も点在する。

2 取組に至る経過

(1) 計画立案

- ・地域の現状を踏まえ、住民のニーズを探り、魅力ある事業を企画する。

(2) 予算確保

- ・予算を概算し、市の助成制度を活用するとともに不足分を公民館が補完する。

(3) 人の確保

- ・事業の目的に合わせて関係機関へ協力を依頼し、参加者を募集する。

(4) 反省考察

- ・事業終了時に参加者の意見を集約し、次年度の計画に生かす。

3 事業内容

(1) 公民館の主な事業内容

① 公民館講座(10講座)

- ・生け花・かな書道・学童茶道・手芸・フラダンス・新舞踊等

② 公民館行事(3つ主催・4つ共催)

- ・公民館祭・親子リンゴ狩り・歩こう会・料理教室等

(2) 「よくばりウォーキング」の名称の変遷と各種団体等との関連

- ・平成19～20年度は、「交通安全わくわくウォークラリー」…交通安全協会との連携
- ・平成21～22年度は、「わくわくウォークラリー」…健康づくりボランティアの協力
- ・平成23年度は、「交通安全ウォーキング」…食改が新たに協力
- ・平成24年～現在までは、「よくばりウォーキング」…市健康課との連携

(3) 行事の成果と地域コミュニティとしての公民館の役割

① 公民館行事の成果

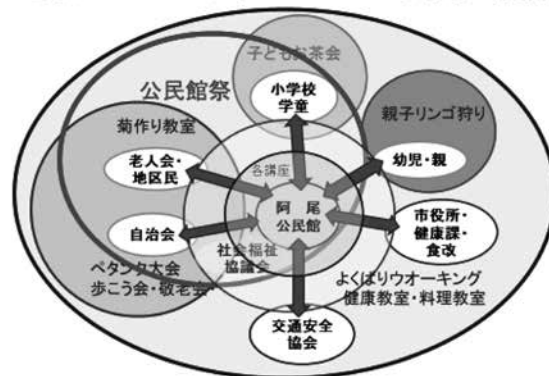
- ・同じ目的をもって活動することで、協力関係

が構築され仲間意識が醸成された。

- ・地域の魅力を確認することで、郷土愛が深まった。
- ・人材の発掘につながった。

② 地域コミュニティとしての公民館の役割(下図)

地域コミュニティとしての公民館の役割



- ・自治会や地区民等と関わりのある事業は、「歩こう会」・「公民館祭」、子供や親は、「お茶会」・「リンゴ狩り」、食改や交通安全協会は「よくばりウォーキング」等と関わっている。上記の事業等を通して、公民館は諸団体や講座等との架け橋となっている。

4 今後の課題

- (1) 活動が尽き、マンネリ化してきている。郷土愛を育む新たな活動の工夫が必要である。
- (2) 活動を支える人材が高齢化している。新たな指導者の発掘が急務である。
- (3) 参加者が固定化している。地域の人々のニーズの把握と新しい人間関係をつくっていきたい。



研究討議

問（愛知県 一宮市 杉本）

阿尾公民館では、講師費用は公民館で賄っているのか。

答 講座参加者の方々から合わせて月 5,000 円程度集めている。

問 公民館の広さはどのくらいか。

答 事務所の他に、40 畳ほどの和室と洋間がある。公民館が小学校と廊下でつながっているため、公民館の学童に来ている子供たちは、勉強後に小学校の体育館で遊ぶこともできる。

問（岐阜県 笠松町笠松中央公民館 原口）

金山コミュニティセンターでは、どのように取り組みを市民に広報しているのか。

答 アナログだが、チラシを配布して周知している。年に 4 回全戸配布される「地域振興会だより」にも取り組みを掲載している。また、「公民館学遊ネット」を活用し、実施後の報告等を行っている。

問 阿尾公民館で行っている「よくばりウォーキング」の主催はどこか。

答 主催は、交通安全協会阿尾支部、阿尾地区健康づくりボランティア、阿尾地区社会福祉協議会、阿尾公民館である。その他、協賛として、氷見市交通安全協会、氷見市警察署、氷見市交通安全対策協議会、氷見市健康課、氷見市教育委員会の協力も得ながら実施している。

問（石川県 別所町 高辻）

金山コミュニティセンターでは、どのように参加者を動員しているのか。

答 あえて動員はしていない。参加を呼び掛け、興味を持って参加して下さる方を少しずつ増やしていきたいと思っている。また、継続することで集まる方が増えていくと思う。

問（岐阜県 美濃市藍見公民館 藤川）

「地域振興会」とはどのような組織なのか。

自治会との関係について確認したい。

答 地域振興会は市内各地区にあり、市からの予算で様々な公民館事業を行っている。また、地域振興会の下部組織として自治会がある。

問 コミュニティセンターのような大きな単位ではなく、単位自治会のような小さな単位で人を集めることが今後求められるのではないかと。

答 単位自治会の世帯数はそれぞれ違う。世帯数が小さい単位自治会では、事業がやりにくい場合もある。単位自治会でできる限りの行事等を行い、できないことはコミュニティセンターで行うというイメージである。今後、それぞれの地域にあった方法で公民館活動をしていくのがよいのではないかと。

問（石川県 小松市 坂本）

世話人や指導者となってくれる人材を探すのが大変である。何かアドバイスはないか。

答 公民館活動に参加する若い人を増やすとよいと思う。参加された方に、「ありがとう。来てくれて助かった。」などの声かけをし、関係をつくりながら人材を探してはどうか。

答 行政の出前講座を活用し、講師を呼ぶ方法もある。

問（富山県 南砺市いつつし自治会 平野）

金山コミュニティセンターでは、集めた意見をもとに、今後どのような活動をしたいと考えているのか。

答 大きいことをしようとは思っていない。地域住民が話し合える場を継続してつくり、小さなことでも会話の中から生まれた取り組みを実現できたらよいと思う。

感想（富山県 高岡市福田公民館 平島）

今回の分科会はとても勉強になった。自分も公民館長として、世帯数や環境の違うそれぞれの単位自治会に目を向け、単位自治会では何に困っているのか、どんな取り組みをしたらよいのか、きめ細やかに地域づくりを考えたい。



助言者のまとめ

- 「金山地区の現状」は、意識の違いや生活様式等の違いから地元住民と新たに転入してきた人との交流の難しさが感じられるとのことである。そこで、これまで以上に「元気で活気あふれる金山地域づくり」を目指して、世代や町内会・性別・職業・出身地など様々な垣根を越えた対話の場を創り、地域の魅力の再発見や地域課題の共有、解決に向けて、ファシリテーターの進行で各ワークショップの開催や、オンライン上の掲示板の活用などを実施している。これらは、若い世代との関係づくりにとっても効果的で、これからの公民館のあり方のヒントとなる取り組みだと思う。「金山地区」に限らず、昨今、様々なところで人と人の関係性の希薄化、地域における住民同士の交流の欠如が問題視されており、地域力の停滞が懸念されている中での思い切った、新たな素晴らしい取り組みである。住民同士の気心が分かり始め、対話が盛り上がってきたこの時にこれからどんな仕掛け、どんな活動をするかが重要であると思われる。
- 阿尾公民館は、あらゆる世代の人々が学べる生涯学習施設として、また、地域の人や様々な分野の組織・団体等を「つなぐ」役割を担う地域づくりの拠点として、公民館のできることから実践し、継続していくことで役割を果たそうと努力されている様子が大変よく分かりました。定期的に行っている「10の講座」の他、各種公民館行事を開催し、特に平成24年度から氷見市の健康課と連携して実施している「よくばりウォーキング」は、色々と工夫しながら継続している行事でその苦労が覗える。どれも阿尾地区のよさや地域の人々の温かさ、人と人のつながりを大切にしようとしている様子がよく分かる。阿尾地区が「持続可能な」という点で抱えている課題は、少子高齢化が進む中、公民館活動の継続的な取り組みの難しさである。若者や働き盛り世代の都市への流失は、地域活動の重要な担い手を減らす結果となり、地域力の停滞の要因となっている。従って、これまでできた行事や活動の開催が難しくなっている。人材の育成や確保が課題としてあげられる現状は、公民館共通の悩みである。
- 地域の各種団体との連携・協力なくして公民館活動や行事を行うことは困難である。普段から信頼関係と人と人のつながりを大切にしたい方が重要である。様々な団体が行事を行う時、公民館長や主事が相談役的な役割を果たそうとする姿勢が大切であると思う。
- 「まちづくり・人づくり」の拠点として公民館は、地域の人や組織を「つなぐ」という役割を担う。学校・家庭・地域が一体となり、子供や若者を育むための取り組みを次の世代につないでいくことが大切である。子供対象の事業を継続的に開催し、公民館で学ぶことの楽しさを実感できるようにする必要があると思う。近年、地域の各種団体役員の手がなかなか見つからず、苦勞する場面が多く見受けられる。持続可能な地域社会としていくためには、人がつながり支え合う関係を日頃からつくって行かなければならない。公民館は、地域の拠り所である。日頃の活動の中で生まれる交流が人を育て活動をさらに発展させることで、新たな人材の発掘・育成の場となる。公民館での学びを地域の活動の中で生かし、その活動が新たな学びを生み出し人を育てるという循環が、地域を活性化させる大きな原動力となると思う。
- これまでもこれからも公民館は、公民館に携わる人、職員が大きな役割を担っている。日頃から地域の人々との信頼関係を築き、人と人をつなぐ、活動と活動をつなぐパイプ役であり、新たな地域をデザインしていく支援者としての役割を果たすよう努力している姿を大切にしたいものである。



河上氏

第3分科会 家庭・学校・地域との連携

北日本新聞ホール

主 題

家庭・学校・地域との連携、協働を推進する公民館の在り方

協議の視点

- 公民館を活用した交流活動
- 教育支援活動と地域の人材活用

| | | |
|-------|-----------------------------|---------|
| 助 言 者 | 富山県教育委員会生涯学習・文化財室家庭成人教育班 班長 | 麦 谷 理 香 |
| 司 会 者 | 愛知県知多市中部公民館 館長 | 平 松 聖 恵 |
| 発 表 者 | 愛知県碧南市大浜公民館 館長 | 新 美 勉 |
| | 富山県黒部市立村椿公民館 館長 | 岡 島 茂 |
| 記 録 者 | 富山県朝日町立南保公民館 館長 | 谷 口 宗 次 |
| | 富山県入善町飯野公民館 館長 | 上 島 俊 晴 |
| 運営責任者 | 富山県公民館連合会 理事 | 谷 口 政 芳 |
| 会場責任者 | 富山県富山市立堀川公民館 館長 | 吉 村 正 一 |



発表1 家庭・学校・地域との連携、協働を推進する公民館の在り方

愛知県 碧南市大浜公民館 館長 新 美 勉

1 はじめに

碧南市は、県庁所在地の名古屋市から40キロメートル圏内に位置している。北は油ヶ淵、東は矢作川、西・南は衣浦港と、周囲を水に囲まれ、地形的には標高約10メートル強の碧海台地と矢作川沖積地からなる平坦地である。昭和23年に、新川・大浜・棚尾・旭の4か町村が合併し、愛知県で第10番目の市となった。そして、昭和30年には明治村大字西端を合併した。昭和32年に衣浦港が重要港湾の指定を受けてからは、臨海工業地域としてめざましい発展を続けている。温暖な気候と風土に恵まれ、窯業、鋳物、醸造等の伝統産業と近代的な輸送用機器関連産業等がバランスよく存在し、さらには、商業、農業、漁業とも調和のとれた産業構造となっている。

2 取組に至る経過

(1) 教育支援活動と地域の人材活動

市には、7つの小学校区ごとに公民館が設置されている。地区ごとに公民館が事務局となり、委員会を設置し、青少年育成推進活動を行ってきた。委員会では、町内会長や小中学校長、各PTA代表、子ども会代表等がメンバーとなっている。

(2) 公民館を活用した交流活動

趣味の文化系や運動系のサークルが複数あったが、高齢化等により、利用の回数が減ってきている。

3 事業内容

(1) 教育支援活動と地域の人材活動

当地区の青少年育成推進活動では、地元の小学生を対象とした。また、地元中学生にはボランティアとして餅つきやうどんづくり、クリスマス会



等に参加してもらい、子供同士の交流や大人との交流の場を提供している。活動をする委員会には様々な立場の方に参加していただき、前述の事業等でも活動の場となっている。

(2) 公民館を活用した交流活動

公民館では、季節ごとに文化教室を開催している。テーマは、人気のあるものや新しいものを選んで進めてきた。その結果、文化教室の終了後は、愛好者のサークルができ、公民館を引き続き利用いただいている。

4 今後の課題

(1) 教育支援活動と地域の人材活動

青少年育成活動はコロナ禍で、特に飲食を伴う事業が多かったことから令和2年度と3年度は活動ができなかった。そのため、今年度から屋外で行う事業を中心に変更した。新たな事業での効果や人材の関わりを検証する必要があると感じている。新たな事業は、「体験農園」と「スタンプラリー」である。

「体験農園」は、碧南市の碧パーク内の農業活性化センターで実施した。碧パークでは産直市が実

施されており、名古屋市等から毎年100万人以上の入場者数がある。今年6月26日に当該事業を実施した。春ニンジンやタマネギ、トウモロコシとジャガイモの収穫を体験していただいた。参加した子供たちの笑顔に、スタッフ一同満足した。また、後日ではあるが、体験農園への参観者の写真を活用して缶バッジづくりにも取り組んだ。

「スタンプラリー」は、廃線となった私鉄4駅分の線路跡を整備して造られたレールパークと碧南ビーチコートで実施の予定である。

(2) 公民館を活用した交流活動

今春に開講した己書（おのれしょ）は定員の2倍、四柱推命には定員の4倍の受講申込があった。今後も受講生に人気のありそうなテーマの教室を開講し、サークル活動等への発展が見込まれる活動を進める必要があると考えている。

「教育支援活動と地域の人材活動」や「公民館を



活用した交流活動」を行う上で重要なのは、「情報の収集と活用」と「人と人とのコミュニケーション」である。情報は生かさないと意味が無く、一人で集められる情報には限界がある。人と人とのつながりを生かすと、複数人で多くの情報を収集することができる。このことで、相乗効果を発揮し大きな成果を期待できる。

発表2

家庭・学校・地域を結ぶ活動を目指して

富山県 黒部市立村椿公民館 館長 岡島 茂

1 はじめに

黒部市は富山県東部に位置し、日本海に面している。人口約4万人で製造業を中心とする第2次産業が盛んであり、世界に冠たる技術を有している。

また、農業・漁業も盛んに行われており、北アルプスからの豊かな水に恵まれた美しい風景と産物をつくり出している。

村椿公民館のある村椿地区は、美しい黒部川に隣接し、YKK(株)本社黒部工場を取り囲むように7つの町内会がある。荒俣海岸や豊富な湧き水など自然環境にも恵まれており、人口2,745人、世帯数980世帯（令和4年7月現在）の産業と自然が共生した活力ある地区である。

2 取組に至る経過

(1) 背景

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、公民館の関係各行事の中止が続き、地域住民とのふれあいの場が少なくなりつつある。七夕飾りづくりを通じて、少しでも地区住民の皆さんに笑顔を取り戻してほしいという願いを込めた。

(2) 学校と地域が連携して行える事業企画

将来を担う子どもたちが郷土のよさを再認識する取組として、みそづくりを実施した。ふるさと教育はもちろん、学校と地域が連携し、世代間交流と親睦を深めることができた。



3 事業内容

(1) あいの風とやま鉄道 生地駅^{いくじ}に七夕を飾る 「村椿小学校のみんなの思いを届けよう」

子ども教室を開催し、学童保育の子どもたちに七夕飾りづくりに参加してもらった。また、村椿小学校全児童と教職員の皆さんにも短冊を配り、願い事を書いてもらうことにした。短冊の中の願い事には、コロナが早く収束し、以前のような生活に戻りたいという切実な内容が多かった。小学生の素直な気持ちに感動するとともに、パワーをもらうことができた。

また、完成した七夕飾りをあいの風とやま鉄道「生地駅」に展示し、駅利用者も願い事を書けるコーナーを設けて、参加型の取り組みとした。コーナーを設けることで、伝統行事を通して子どもたちの願いに触れてその思いを共有するとともに、人と人とのつながりを感じることができた。

(2) みその作り方や手順を地域の方から習う 「日本の食文化にふれ、世代間交流と地域の活性化を」

村椿地区で収穫された米と大豆を用意し、4年生の児童が地産地消で自前みそを作る企画である。まず、栽培に関わる地域の方々の思いを知り郷土のよさを再認識し、みそができるまでの工程を学んだ。

その後、学校から児童が地域の農家へ出向く、地域の方が学校へ出向きみその作り方についての出前講座を行う、児童が公民館で地域の方とみそづくりを行うなど、学校と地域とが連携することで内容の充実を図ることができた。

4 今後の課題

- (1) 多くの人に参加してもらいやすい工夫や、地域が活性化する事業に発展させるための改善。
- (2) みそづくりの工程は日数を要し、時間をかけなければならないため、それに携わる人員の確保が大切である。それに伴い、参加者と指導者のみそづくりへの熱意を引き出しながら、いかに事業の充実を図っていくかが問題である。



研究討議

問（富山県 富山市古沢公民館 長谷川）

子供を対象とした事業を行う際、児童数の減少や学校の統合等の理由により、事業の実施が困難になる。それぞれの公民館ではどう対応しているのか。

答（新美）碧南市では、統廃合の予定はなく、特に検討していない。

（岡島）黒部市も中学校の統合が終わり、小学校の統合が検討されつつある。統合されれば学校と地域との関わりが薄くなるのではないかと危惧している。当面の間、行政の動きに注目していく。

問（石川県 加賀市 林）

各事業の講師は、どのように選定・依頼しているのか。

答（新美）青少年育成推進委員が担当しているので、小中学校長や町内会長、保護司等が担当することが多い。また、文化教室の講師は、サークルのメンバーから選出することが多い。

（岡島）趣味のサークルで活躍している方の中から講師を選出している。

問（岐阜県 大垣市一ノ瀬公民館 三輪）

昨日の文部科学省施策説明の中にあつたように、コミュニティスクール化し、地域と学校が一体となってふるさと学習等に取り組んでいきたいと考えている。各地区の取り組み状況について知りたい。

答（岡島）黒部市でも学校と一体となって農業体験等の課外授業に取り組んでいる。

（福井県 福井市 岩永）公民館のライトアップを小学校と協働事業として計画したところ、中学校も実技指導に協力してくれた。更に、この話を聞き配線等については高等学校がクラブ活動の一環として協力体制をとることができた。組織としてではなく活動に賛同した団体が協力し合うことで、地域の一体化を図ることができた。

（富山県 小矢部市埴生公民館 加賀谷）ふるさと学習の一環として、気球から地域を俯瞰する活動や、大河ドラマの登場人物である木曾義仲に関する史跡を巡る活動を企画したところ、定員を大幅に上回る参加者が集まった。興味関心を喚起する活動であれば情報は自然と広まり、参加意欲も高まることが分かった。本館でも、福井市の取り組みを参

考にして、公民館のイルミネーションに取り組みたい。【Zoom】

問（富山県 富山市石田公民館 森田）

各公民館では、地域との協働体制をどのように構築しているのか。

答（新美）青少年育成委員会には各種団体の長が参加している。その他、「親父の会」という団体も公民館活動をバックアップしてくれている。

（岡島）自治振興会や各種団体の長で構成されている公民館運営協議会を通して、公民館の各種団体との協働体制を構成している。

問（富山県 富山市藤ノ木 尾崎）

最近、学校と地域との連携が重視されている。公民館と学校との詳しい情報交換の場は設定されているか。

答（新美）公民館運営審議会や青少年育成推進委員内に小中学校の校長先生が参加しているので、その場では相互の情報交換はする。

（岡島）公民館運営協議会や館長が学校評議員になっていることから学校評議員会議の際、相互の活動について情報交換をしている。

問（石川県 小松市 高山）

公民館として児童の安全確保のため、何らかの取り組みをしているか。

答（新美）公民館運営審議会や青少年育成推進委員会に所属するメンバーの母団体が子供の見守りをしている。

（岡島）登下校時に見守り隊として、参加している。



Zoomで発言する参加者

助言者のまとめ

学校家庭地域の連携の中で大切なこと

「集う・学ぶ・結ぶ」機能の再確認

●公民館活動<集う>

コロナの影響で、「集う」ことがなくなりつつあり、本来の公民館は気軽に人々が集える場である。8月の文科省学力・学習状況調査の中で「今すんでいる地域の行事に参加していますか。」という設問で小学生は令和元年度において67.8%、令和4年度では52.5%に減少した。中学生では、令和元年度49.9%、令和4年度では39.5%に減少し、正にコロナの影響が大きい。少子高齢化や核家族化、共働き家庭の増加で子供たちを取り巻く環境も大きく変化している。子供たちは、親と学校の先生以外の大人とどれだけ関わっているのか。このような時こそ異世代の人との関わりができる公民館の役割は大である。以前の調査で「子供たちが地域住民と交流することで学力や規範意識、コミュニケーション能力の向上につながった。」という回答の学校が7割以上あった。核家族化や少子化により寂しい思いをしている子供たちのためにも公民館は居場所になっている。活動を通じて大人からの声掛けで、子供たちの安心感や自己肯定感が芽生えてくる。公民館活動の中では学校生活の中で見れない一面もあり、地域の方々が良い面、悪い面も含め、子供たちの情報を学校と共有する。地域に開かれた学校づくりを目指し「学校評議員」から「コミュニティスクール」制度となり、地域の協力がより一層求められる。今後の課題として、地域の人材をいかに開拓できるか、地域からどの程度、どのような協力を得ることができるかを検討していくことも大切である。

●公民館活動<学ぶ>

活動によって子供たちに豊かな体験、時には我慢をする体験も必要ではないか。地域の人たちにとっても、これまで培ってきた知識や経験、公民館講座で学んできた成果を発表していく場にもなる。自己実現、生きがいにもつながる。地域の人材活用や発掘、伝統文化や伝統行事を次の世代に継承していくことも公民館の責務ではないか。特に「餅」は、杵と臼を使ってつくるものと子供たちは知らず、スーパーで販売している既成のものと感じている。村椿公民館のみそづくりも同様である。小学校3年生国語の単元で「姿を変え

る大豆」があり、学校で習ったことを公民館活動で体験的に学習できる。自分が子供の時に体験した楽しいことや嬉しいことは大人になってもそのまま残っている。この経過は価値観の土台を育み、その土台にあるのは経験である。このことがいづれふるさとへの愛着とつながっていく。富山県では戻ってくる若者が少ない。先の調査の続きで「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。」という設問では、小学生51.3%、中学生40.7%が「考えることがある。」と回答している。昨日の文科省の講演で「リアルとデジタルを組み合わせた新しい社会教育活動の展開」が提起された。デジタルの活用を考えていくことも大事である。

●公民館活動<結ぶ>

「集い」、「学び」を通して「結ぶ」の機能の充実を図る。学校は、人生の基礎となる力を培う場であり、生きる力は学校教育のみではできない。地域社会とのつながりや専門的な知識や能力をもった人材、経験豊かな高齢者、自然環境、地域の特色等に影響を受けながら、実社会に裏打ちされた幅広い知識や能力が育まれていく。地域における学校教育と社会教育の連携の推進が重要で、学校と地域を結ぶネットワークづくりが実践されている。これからの公民館は、その役割と機能を発揮して、学校と地域を結ぶコーディネイトが必要。公民館が地域づくり・人づくりの総合的な拠点とされるよう期待されているが、皆さんの日々の活動がその役割を果たしている。誰もがちょっと立ち寄ってみたいくなる、地域の絆をつくる公民館を目指し、新たなステージに向かっていきたい。



麦谷氏

第4分科会 ポストコロナの公民館

富山県民会館304号室

主 題

ポストコロナを見据えた公民館活動

協議の視点

○ウイズコロナでの公民館活動の工夫

○ポストコロナでの学びの在り方

助 言 者

全国公民館連合会 事務局次長

村 上 英 己

司 会 者

福井県南越前町教育委員会事務局 次長

白 井 眞

発 表 者

福井県福井市清明公民館 館長

川 口 英 雄

富山県富山市山室校下自治振興会 事務職員

布 施 智 課

記 録 者

富山県富山市生涯学習課 主事

石 橋 遼 太

富山県富山市生涯学習課 主事

池 田 莉 里 花

運 営 責 任 者

富山県公民館連合会 理事

山 口 吉 弘

会 場 責 任 者

富山県富山市立光陽公民館 館長

高 野 博 之



発表1

ポストコロナを見据えた公民館活動

福井県 福井市清明公民館 館長 川口 英雄

1 はじめに

当地区は、JR 福井駅から約 5km の福井市南部に位置し、人口約 7,700 人、世帯数約 3,200 世帯、自治会数 17 自治会で構成され、地区内には小学校が 1 校（児童数 500 人）、中学校が 1 校（生徒数 300 人）ある。

また住宅地や団地のほか、中小の企業・店舗、さらに大型商業施設もあるが、東に旧北陸街道、西に城山（登山道あり。標高 202m）に囲まれ、ふるさと百景にもなっている自然環境豊かな地域でもある。

2 取組に至る経緯

たいていの事業は、大人が企画して子どもたちに体験してもらうというケースが多いが、当地区では、少年教育事業において子どもの主体性、自主性、創造性を育むための活動を進めてきた。環境事業では、地域の環境課題の一つとして「資源循環型社会」を取り上げ、5 カ年で地区の団体を協働させ事業に取り組んできた。さらに、令和 2 年に「ふくい SDGs パートナー」として登録し、地区の自治会、企業、団体と連携を進めている。

3 事業内容

(1) 子ども議会「夢王国」の発足

事業実施にあたり、小学 4,5 年生を対象に朗読劇をする小学生を募集したところ、4～5 人の応募があった。そこにギターを弾いて歌っている少年も仲間に加わって演奏を始め、子どもたちが集まってバンドを結成した。子どもたちが資料を作り、近くの老人ホームで演奏会をした。そういった活動の中で子どもたちの間で話し合いが生まれ、各自がそれぞれの役割を持つ集まりになった。名称を『夢王国』とし、年間を通して自分たちで企画を行い、現在は日本全国 21 の公民館とオンラインで交流も



している。子どもたちのおかげで、Zoom や Instagram を通した公民館同士での交流も生まれ、現在 15 県 27 館と繋がりができている。対面と SNS のハイブリッドな企画の必要性がある。

(2) 『夢ファーム会』による資源循環型社会づくり（生ゴミ削減と環境への意識高揚）

福井市では、1 人 1 日あたり約 950g のゴミを排出しており、処理費用におよそ 23 億円かかっているという課題があった。

そこで初年度は勉強会から始め、コンポストによる生ゴミの処理方法を学習した。自宅・公民館で一次発酵、畑で二次発酵を行い、野菜づくりに利用し、毎週火・木・土には公民館前で有機野菜を市民へ安価で販売したり試食会を実施したりした。

小学生は 1 年を通して大人と一緒に体験し、発表会も行うなど環境課題に取り組んでいる。また、令和 2 年に福井市から「資源循環型社会」のモデル地区に指定され、生ゴミ処理機を導入した。

(3) SDGs の発信（持続可能な社会への意識の向上）

「ふくい SDGs パートナー」に登録し、地域や他の公民館と連携しながら商業施設で公民館の展示発表を 3 ヶ月間行った。令和 4 年度には、福井市で初めて商業施設と近隣の公民館 3 館で SDGs の協定を調印した。今後は共通の課題を決めて継続的に実施し、その成果を踏まえて持続可能な社会づく

りの大切さを多くの市民に発信していく。

4 今後の課題

公民館の原点は、寺中作雄氏の描いたイラストにあるように、地域の方々が公民館に集い、知の循環をして地域の課題解決に努力することである。

これからの社会を見通した時、次の2点が重要になってくると考えている。一つは在留外国人との共生社会づくりである。現在当地区にも多くの外国籍の方が暮らしているが、9年前に「国際交流クラブ」を立ち上げ、外国の方が安心して公民館に来館できるよう努力している。

二つ目は、ノーマライゼーションが普及し、障がいのある人の社会参加が当たり前になってきている中で、全ての住民が共に活動できる企画や公民館



の安全設備を整えていくことが求められる。今後も事業内容で紹介した活動を、住民（子ども）参加型の形式で継続して進めていく。

発表2

ウィズコロナからポストコロナに向けての新しい公民館活動

富山県 富山市山室校下自治振興会 事務職員 布施 智 課

1 はじめに

富山が誇る雄大な立山連峰が大空に映える、自然豊かな富山市。その中心市街地から3キロほど東に位置する山室は、5,700世帯、人口11,600人の商業エリアと住宅エリアが混在する地区である。

地域内には、市立公民館が1館、町内会が運営する自治公民館が17館あり、各館が工夫しながら公民館活動に取り組んでいる。

市立公民館である山室公民館のコロナ発生前の利用者数は、年間15,000～18,000人ほどであり、地域の方々はイベントに積極的に参加していた。

2 取り組みに至る経緯

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、私たちを取り巻く環境は大きく変わった。今までのやり方では公民館活動を続けられなくなってしまった。山室公民館が新しい取り組みを始めたのは、令和2年5月頃。皆の学び、つながりを守りたいとい



う想いで「チームやまむろ」をつくり、安心安全に活動に参加してもらえるように努めた。

3 事業内容

〇コンセプト

「コロナでもポジティブな考え方。できないことより今、できることを大切にして取り組もう」

(1) ウィズコロナ1年目:コロナ禍であっても
学びの場を守りたい

① 安心安全な活動(会場、人数、講座のスタイルを工夫)

ア やまむろちい散歩

コロナでバス旅行ができなくなったのであれば、近所を歩こうという気持ちから企画。地域の方が先生となり、地域ならではの歴史などを教わりながら1時間ほど散策をした。

イ 会議プラス講座

もともとある集まり(役員会など)の後に少人数で学ぶ講座を開催した。

ウ 自治公民館で出前講座

市立の山室公民館よりもさらに近所の自治公民館であれば、より気軽に参加してもらえらるだろうと考え企画。少ない人数でも回数を多く行うことで、多くの方に講座を受講してもらうことができた。

エ お外で寄せ植え

密にならないように、公民館の外で活動を行った。

オ 「広報誌ふれあい」の配布

毎月一回全世帯に配布。コロナ、運動、防災、栄養、脳トレなどの情報を掲載。公民館に来ることなく、学びを継続させることができた。

② 心に優しい活動(コロナの不安を和らげて思わず笑顔になれるように)

ア おそろいのブレスレット作成

念珠ブレスレットを自分のお気に入りの石を使い、一つ一つ願いを込めて作成した。

イ コケリウムの作成

おうちでコケの成長を楽しむことができるため、おうち時間の充実につながった。

③ 同じ目標をもって活動(活動のスタイルは違っても想いは一つ)

ア エールプロジェクト

一人一人が葉っぱの形をした紙に、医療従事者、家族、友人、自分自身への応援メッセージを書き、約800枚を公民館の壁に貼った。

イ ラベンダープロジェクト

住民の方の都合のいい時間で、公民館に植えてあるラベンダーを摘み、様々なクラフトに活用した。

(2) ウィズコロナ2年目:地域の宝(人・想い・モノ)を終結した活動

みんなでつながろうプロジェクト
～できることをつないで形に～

① 手作りキャンドル

使い終わったラップの芯などを持ち寄り、2,000個のキャンドルを公民館に並べて展示をした。

② グータッチ写真

顔を出さずに、グータッチをしている写真を持ち寄り、公民館の階段に並べて掲載。約300枚の写真が集まった。

(3) ポストコロナを見据えながらの3年目

① コロナ前の事業をポストコロナ仕様へと見直し

ア 簡単プロジェクトのすすめ

- ・大規模イベントを変更
- ・運営スタッフの負担を少なくする

イ 市立公民館から自治公民館へ

- ・みんなの居場所をより身近に
- ・連携を強化

② 新たな学習の模索

ア より身近な防災学習

- ・防災講座 トイレ編
- ・簡易水防 水のうを作ろう

イ チームやまむろでSDGs

- ・ペットボトルのキャップを集めよう

4 今後の課題

コロナ禍によってあらためて実感した人と人のつながりの大切さ、そのつながり、ふれあいを支える居場所の一つが公民館。心をつなげていけることから始めようを合言葉に、楽しく明るい地域を目指していく。



研究討議

問（石川県 七尾市 米田）

子ども議会には、低学年から高学年までまとめてみんなが参加しているのか。

答（川口）学年による縛りはなく、みんなが参加している。

問 事業等を行う際に、全体を引っ張っていくにはどうしたらよいか。

答（川口）企画した者が率先して汗をかくことが望ましい。

問（富山県 砺波市中野公民館 清原）

公民館があって自治振興会ということであれば行政からの支援についてはどうか。

答（布施）基本的には、ふるさとづくりや 公民館連絡協議会からの予算で活動している。

問（富山県 富山市上熊野公民館 熊田）

清明は継続した活動の中で、親の理解を得るために行ったことはあるか。

答（川口）福井は共働き世帯が多く、子供たちが公民館へ来る。親御さんも公民館なら大丈夫という安心感がある。できるだけ子供の居場所をつくってあげることが我々の使命だと考えている。

問（司会者）

山室の防災講座はどの世代が参加して、どれくらいの頻度で行っているのか。

答（布施）まずは民生委員の方（60・70代）や地域の役員の方（50・60代）に声をかけた。現在の活動は2回で、今後は講座を受けた人が講師として自治公民館でやってもらうなどを考えている。

問（富山県 富山市水橋入江公民館 明官）

山室の企画の発案はだれが中心となっているのか。

答（布施）チームやまむろのメンバーと各団体の方々々と公民館で発案をし、最終的に予算等を考慮し公民館の方で決定する。

問（愛知県 一宮市 内田）

清明がSDGsを調停して、今後進めていく予定の活動は何か。

答（川口）地域の大型ショッピングセンターとも協力して、現在は定期的に地域のゴミ拾いを行っている。

問 キャンドルプロジェクトについて、費用等や苦労話などはあるか。

答（布施）費用は3,000個のLEDライト代10万円の初期投資のみで、その他はSGDsで集めたものを利用している。

子供たちを公民館へ集めることが難しい。親子で参加できるものとして考えたのがキャンドルプロジェクトだった。

問（富山県 黒部市前沢公民館 中谷）

エールリーフなどの活動を実際支えているのはどのような人か。

答（布施）エールリーフは職員が仕事の合間に1,000枚ほど切った。公民館メイトのような協力者が10名いる。

問（富山県 高岡市北般若公民館 青島）

公民館メイトはどのようにして集めたのか。

答（布施）PTA活動をされていた皆さんが中心となり、声掛けをしながら増えていった。

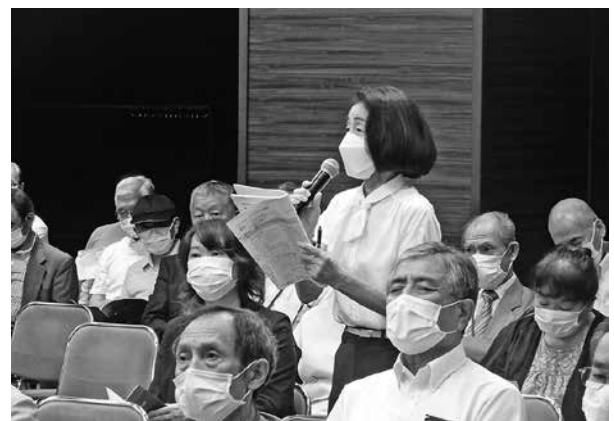
問（愛知県 一宮市 内田）

ちい散歩について、コースや時間配分はどうか。

答（布施）公民館を起点として往復1時間が目安。郷土史を参考に目的地を決め、事前に職員が実際に歩いて休憩場所等の下見をしている。1班20名ほどの定員。

問 清明は高齢者のイベントは企画しているか。

答（川口）老人会ではミニ運動会等を定期的に行い、壮年会では山の整備活動を行っている。また、自主サークルの高齢者は、子供の見守りを兼ねて子供たちに教えている。



助言者のまとめ

- コロナによる影響は、公民館の歴史の中で大きなインパクトとなった。本来公民館には「集う」という役割があり、それによって人と人とのつながりや学習が生まれてきたが、それができなくなったということが大きな変化であったと思う。
- コロナに対して、公民館における対応は二つに分けられる。一つは、コロナに向かってできることをチャレンジしている公民館、もう一つは公民館でクラスターが発生しては困るとして、あまり活動をしてこなかった公民館である。前者の公民館は、この3年間で蓄積した経験はきっと良い影響をもたらすと思われる。後者の公民館は、今までの活動が途切れてしまっている。その途切れてしまったものを結び付けていくが必要になる。
- コロナ禍での活動となると、オンラインに目が向きがちだが、今日の二つの公民館の事例は、オンラインでなくともここまで活動できるということを示してくれた。
- 山室公民館は、野外のウォーキングやガーデニングなどチームやまむろの連帯感をもって、様々なことにチャレンジしておられる。エールリーフやキャンドルライト、グータッチ写真の掲示によって、公民館の雰囲気を良くし、また来たいと思わせる工夫ができています。公民館は、もう一度来たくなる、心温まる場所であるべき。そのため、他の公民館でも山室公民館を参考に良い雰囲気づくりをすることが大切である。手始めとして、昔から貼ったままの掲示を外したり、蛍光灯の色を変えてみたりするだけで雰囲気は変わらと思う。
- 清明公民館での活動のように、子どもたちを主体として、これだけの活動ができていくことはすごいと思う。公民館に集まっている子どもたちを対象に始めていったことが良い視点であった。なぜなら、通常公民館側から学校と連携しようとすると、学校からの許可がおりず、進まないことが多いからである。なので、まず公民館に子どもたちが集まる雰囲気をつくり、集まってくれた子どもたちを対象に取り組みを進めていくべきである。
- 事例を紹介する。前橋市にある公民館では、学習室に集まる高校生たちを対象にした活動を行っている。内容は、その学習室を卒業した人たちに、勉強の相談や、大学生活について質問ができるような場を設けるというものである。
- 清明公民館の活動は、大人たちはなるべく何もしないということを実践していた。それぞれ公民館の役割なのかなと感じた。子どもたちが、公民館に来れば、自分たちのやりたいことができ、大人たちがサポートしてくれると感じられる関係性が大切だと感じた。
- 事例を紹介する。那覇市にある若狭公民館では、パーラー公民館という活動を行っている。これは、地域の公園などにパラソルと机だけ持って行ってそこを公民館とし、活動するというもの。パーラーとは、沖縄の言葉で簡易食堂という意味。そこでのコンセプトは「何もしない」。指導や助言はせずに、地域の方々、子どもたちがやりたいように活動を行うことを大切にしている。
- 今回の事例では、オフラインの活動がメインだったが、この富山大会や福井県高浜町立和田公民館等のようにオンラインを取り入れた活動も今後重要になってくるため、恐れずに挑戦することも必要である。



村上氏

第5分科会 新たな時代の公民館

富山県民会館401号室

主 題

災害の多発や人口減少時代の公民館の在り方

協議の視点

○地域の人々の命を守る公民館の在り方

○人口減少時代の新しい地域づくりに向けた公民館の役割

| | | |
|-----------|----------------------------------------------|----------------------|
| 助 言 者 | 富山県民生涯学習カレッジ 学長 | 菊 池 政 則 |
| 司 会 者 | 石川県公民館連合会 副会長 | 稲 荷 明 彦 |
| 発 表 者 | 石川県小松市公民館連合会 会長 富山県富山市立豊田公民館 館長 | 中 屋 幸 夫 舩 谷 友 義 |
| 記 録 者 | 富山県富山市八尾教育行政センター 所長代理 富山県富山市婦中教育行政センター 係長 | 吉 田 華 恵 杉 山 奈 央 子 |
| 運 営 責 任 者 | 富山県公民館連合会 副会長 | 大 野 聡 一 |
| 会 場 責 任 者 | 富山県富山市立大沢野公民館 参事・館長 | 中 村 忠 成 |



発表1

地域活性化事業とふるさと再発見

石川県 小松市公民館連合会 会長 中屋 幸夫

1 はじめに

小松市は、石川県西南部に広がる豊かな加賀平野の中央に位置し、産業都市として発展し、南加賀の中核を担っています。人口約10万人、霊峰白山を東に望み市内より車で10分ほどで小松空港や北陸高速道路が利用できます。2年後には北陸新幹線が金沢～敦賀間で開通し小松にも止まります。

2 人口減少時代の新しい地域づくりに向けた公民館の役割(地域の魅力は地域から)

小松市も地方都市の一つです。住民の流出により空き家も増え、お年寄りの人口割合が3割を超えつつある地域が増えています。また、追い打ちを掛けるように2年前から世界中に広まったコロナ禍のため、地域住民の親睦や繋がりさえも制限されました。

そんな現状の中、今できる公民館活動とは何か…!! 地域住民が誇れる魅力ある街づくりができないか…!! 試行錯誤の末、地域の自然や伝統・文化を見つけ出し、ドローンによる空撮やビデオ撮影で動画を作成し、自分たちの地域の魅力を全国にむけて発信することにしました。

3 地域の景勝地や伝統・文化の映像を全国へ配信

ドローンでの空撮は、ラジコン飛行機操縦のマニアにお願いし、ビデオ撮影と動画編集は自分たちで…、今も四苦八苦しなながら作業しています。

また、話題性もあり地方紙にも掲載されました。

- 耕作放棄地などの遊休地を活用し、地域の観光スポットとして取り組んでいる映像
 - ・瀬領町 “ひまわりの丘” (R2.8)



- ・津波倉町 “秋桜” (R3.10)

など

- 地域の伝統・文化を継承している映像
 - ・“ひまわりの丘と瀬領町” (R3.9)
 - ・赤瀬町 “荒俣峡と那殿観音” (R3.12)

など

- 地域の皆さんが維持管理され守っている自然や景勝地の映像
 - ・春の里山、松岡町 “千恵子桜” (R3.4)
 - ・春の里山 “布橋の水芭蕉” (R3.4)

など

地域に残る伝統・文化の伝承(継承)や景勝地の維持管理、空き地や耕作放棄地などを利用し、村おこしのために取り組んでいる姿を、地元の人達のみならず郷土を離れ全国に住んでいる方々にも見ていただければと思っています。

また、「温故知新(故きを温ねて新しきを知る)」の言葉のとおり、失われつつある自然や歴史・文化

などを見つけ出すのも公民館の仕事であり、この取り組みが魅力ある新しい地域づくりの一端になればと願っています。

4 まとめ

ドローンやビデオを使っての映像の動画配信『ふるさと再発見、地域活性化事業』に取り組んで3年目を迎えます。今までは主に事務局で題材を選びながら行っていましたが、今年度から地域活性化事業専門委員会を発足しました。また、チラシ『地域の魅力は地域から』を作成し、公民館を通して各町内会にも配布、地域からの要望を取り入れながら今取り組んでいます。

5 終わりに

これからも地域の魅力をたくさん見つけ出し、様々な目線での映像を撮り、発信し続けて活性化につなげていきたいと思っています。また、いろい



ろな映像を残すことが、地域の財産となっていたら素晴らしいことだと思います。

発表2

地域防災における公民館の役割

富山県 富山市立豊田公民館 館長 舛谷友義

1 はじめに

豊田校下は、富山駅の北約3.5kmに位置する富山市北部の地域で、「豊田」の名前のとおり昔は豊かな田園地帯でした。現在、世帯数6,610、人口が15,428人と市内で2番目に多く、29の町内があります。南北に県道が2本、東西に国道8号線が通っている他、旧JR北陸本線である「あいの風とやま鉄道」、旧富山ライトレールである「富山地方鉄道富山港線」の線路が走り、今年3月にはあいの風とやま鉄道の新駅「新富山口駅」が新たに開業するなど交通の要所として発展しています。

現豊田公民館は、平成29年10月に旧豊田小学校跡地に新築され、今年6年目になります。公民



館内に市立図書館の分館があり、隣接して「とよた保育園」が建っています。

2 取り組みに至る経緯

校区の西側は海拔が低いいため想定浸水範囲が広く、神通川と全国でも有数の急流、常願寺川の2つの一級河川に挟まれ、過去には豪雨等による河川の氾濫で甚大な被害を及ぼした記録が残されています。また、校区の真下を呉羽山断層帯という活断層が走っています。ここ千年以上は活動していませんが、もしも活動すると震度7クラスの激しい揺れが予測されており、建物の倒壊、ライフライン等の損壊により、住民の命と暮らしが憂慮されます。

これを踏まえ、「自分たちの地域は自分たちで守ろう」を合言葉に自治振興会長を座長に防災会議をもち、平成31年3月に豊田地区自主防災会を結成し、あわせて避難所運営マニュアルを盛りこんだ防災計画書を策定し、これを受けて各町内会は自主防災会を結成し、今日に至っています。

3 事業内容

令和元年は、10月に防災計画書に基づき住民の避難、安否確認、応急手当等の総合訓練を豊田小学校で実施し、462人が参加しました。

令和2年は、コロナウイルス感染拡大の影響により、事業が実施できませんでした。

令和3年は、6月に大雨による「警報レベル3」発令を想定した初動連絡・活動机上訓練、炊き出しの訓練を公民館にて実施しました。8月には、講師として地域包括支援センターの介護支援専門員、東日本大震災の際にボランティアとして現地で活動した理学療法士を招いて、避難所での災害弱者への対応の仕方と介助者の心構えについての講座を行いました。10月には防災資機材（ダンボールベッド、非常用発電機、簡易トイレ、ワンタッチテント、段ボール間仕切り等）の展示を公民館にて行い、校下の住民が誰でも見学できるようにしました。防災士による取扱い訓練も実施しました。

令和4年は、6月に富山県消防学校に隣接する「四季防災館」において、自主防災組織の隊長や自治振興会の役員を対象に、防災士による防災講座を受講し、防災体験（地震・初期消火・火災を想

定した煙体験等）をしました。10月には、秋の火災予防運動の一環として、富山市消防局と自主防災会との合同訓練を予定しています。

現在の豊田公民館から徒歩1分の距離にある旧豊田公民館では、1階に教育委員会部局の事務所、2階に非常食や飲料水、防災資機材等を備蓄しています。豊田地区自主防災会、富山市がそれぞれ備蓄しており、災害が発生した場合に避難所を開設し、住民が3日間しのぐ量を想定しています。防災資機材の備蓄は、第一次避難所となる豊田小学校でも備蓄しています。

4 今後の課題

近年、全国各地で自然災害が多発しています。隣県の石川県能登半島では、令和2年12月から頻繁に地震が発生しており、今年の6月に珠洲市で震度6弱の地震が発生した際には、富山市でも震度3程度の揺れが観測されています。

このことから分かるように、けっして富山県が安全な地域ということはありません。富山県は幸いにも災害が少ないと感じており、災害を他人事と思っている方がいまだに多いようです。いかに住民の危機意識を高めていくかが今後の課題であると考えます。



研究討議

問（石川県 金沢市薬師谷公民館 小原）

豊田公民館と同じような活動をしているが、私の地域では自主防災会の仕事である。組織として異なるためか、公民館としての活動なのか疑問に思う。

答 公民館にて防災資機材の展示や、実際の災害時には防災無線にて情報収集を行う対策本部が置かれることなどから、公民館活動としている。

問（石川県 加賀市庄公民館 平田）

食料品の備蓄について、賞味期限の来たものはどうしているか。

答 防災訓練に参加された方や防災資機材の展示を見に来られた方へ配布したり、町内会長や自治振興会の役員へ会議の際に配布したりしている。

問（福井県 鯖江市中河公民館 八田）

防災の講座をするにあたって、私の地区では女性の視点を取り入れてほしいという指摘があった。女性を取り込んだ活動はあるか。【Zoom】

答 炊き出し訓練を女性団体をお願いしたり、訓練には女性役員にも参加の声をしたりしている。

答（司会者）石川県では積極的に女性の防災士の登用をしている。女性目線での避難所の設営等々を検討していこうという意見が多い。そうでなければ皆が使う避難所にならないと思う。

問（石川県 金沢市千坂公民館 山腰）

ドローンを使い我が町の新しい発見があることは非常に良い。これを機に公民館へ地域の人たちが集まってくるようになったか。

答 この映像は各校下、地区公民館へ地域活性化のためのアドバイス映像であり、具体的な反響はあまり見えていない。ただ、新聞社の取材を受けたことにより反響があった。

問（富山県 黒部市浦山公民館 林）

ドローン撮影等にかかる予算はどうしているか。また、撮影については公民館全体へ呼びかけしたのか。

答 予算は、毎年行っている公民館フェスがコロナの関係で中止しているため、その予算で映像を作成している。各公民館、各町から撮影の要望があるので、分類しながら取り組んでいる。

問（岐阜県 笠松町笠松中央公民館 森）

公民館が主導で活動していく上で、市町村との連携、合意形成、ベクトル作りなど、実践に向けてどのように仕組みでいったか。

答（中屋）市教育委員会の組織の中にある中央公民館と連携している。

（舩谷）公民館長だが、自治振興会の事務局でもある。自主防災会の仕事との境目が曖昧なところもあるが、うまく連携していきたい。

問（福井県 福井市鷹巣公民館 丸山）

ドローン撮影について、制限や許可について教えて欲しい。

答 ドローンを飛ばすには、登録、申請が必要である。町内を撮影するときは町内会長へ許可を取る。人物が映り込む場合は顔が映らないよう配慮する。町なかでは家の中が映り込んだりするので正直撮影は難しい。

問（石川県 加賀市 南出）

公民館として人を繋ぐには防災意識を皆に持ってもらう、参加してもらうことが近道と考えるが、公民館はそういうものでないと言われるとどうしたらよいか。

答（司会者）防災の住み分けとして、公民館は直接主導的な立場ではない。公民館としては、防災の学習意識を高め、皆に危機意識が行き渡るよう学習する機会（防災ウォークラリーなど）をつくるということができると思う。そのようにして、意識を高めていけるようになればいいと考える。



助言者のまとめ

○小松市中屋会長の発表について

ドローンを使った先進的で斬新な動画で、まず地域の人々に地域の良さを知ってもらい、さらに全国の皆さんに発信していこうという果敢な姿勢が素晴らしい。自分たちの町はもっと面白いのではないかな?という思いが根本にあり、今までは通り過ぎていた町をよくよく見たら、こんな良さがあって、こんなところも見てもらいたいというワクワクした気持ちはずっと持ち続けたいものです。

公民館を地域の賑わいの中心にする意識の高い活動です。住民の皆さんに心のふるさと心のよりどころと思っていただけるような公民館を目指していただきたいです。

映像の観賞会なども公民館等でされれば、また住民が集まるのではないかと。予算面が問題となるが、動画を撮るのが得意な方をボランティアで集め、仲間づくりをされればさらに発展するのではないかと。

○富山市舩谷館長の発表について

富山県、特に富山地区は国内有数の急勾配の河川に挟まれて江戸時代から頻繁に水害の起こる地域であり、現在でも国の事業として立山砂防ダムの管理が行われ、土砂の流出を止めています。江戸時代の安政年間には大地震で山が2つ崩落しています。富山県民は災害の少ない地域に住んでいるというイメージを持っているかもしれませんが、危機意識を持つ必要があります。したがって、豊田公民館が行っている防災対策の事業での啓発活動はとても大事なことです。

防災は本来の公民館の事業ではないという意見もありますが、住民参加を募った機会に、公民館の事業を知ってもらうような取り組みを行って、公民館の仲間、支援者を広げていけば、公民館の活動の助力となっただけなのではないでしょうか。

- 質問のあった公民館の役割は、社会教育法の20条に目的、22条に事業、27条に職員について書かれています。運営は最少人数で行われており、日々苦しいことであろうかと思いますが、何か楽しみを見つけて、仲間をつくって日々の公民館活動に活かしていただきたいと思います。
- 現在、多くの公民館は老朽化しており、数も統合されるなどして減っています。社会教育法に基づく公民館として新規に建設する場合の文部科学省からの援助はほぼゼロなので、建て替えは市町村で行うこととなり、貸館収入を得るためにコミュニティセンター化が進む流れとなっています。そのことで公民館活動に支障がある場合には「うちの公民館はこういう活動をしていきたい」という目的について住民と合意形成し、共通意識を持ち、公民館をよりよく知っていただくことが必要です。行政や教育委員会部門とよく話し合って、味方につけてほしいと思います。
- 富山県と県民カレッジがタイアップして運営している「とやま学遊ネット」の中には、「とやま公民館学遊ネット」があり、県内公民館が情報を載せられるようになっています。これは公民館の方々から「仲間に入れてほしい」と要望があり、ネットの仲間を広げたものです。こういった県や市を巻き込んで仲間づくりをしていくのが、今の公民館活動を推進していく第一歩だと思います。



菊池氏

大会宣言

今大会の成果を広くアピールするため、富山県公民館連合会
大野聡一副会長が大会宣言文（案）を読み上げました。

宣言文は、参加者の拍手をもって原案通り採択されました。



大会旗引継

大会旗は、会場の大きな拍手の中、富山大会中西彰大会長から、
次回大会開催を担当する三輪賢司岐阜県公民館連合会会長に引き継
がれました。



次期開催県挨拶

岐阜県公民館連合会
会長 三輪賢司

今ほど開催旗を受け取り、その重さから伝統と歴史をしみじみと
感じました。令和5年は清流のそして、山と緑の岐阜県で開催いた
します。ぜひ皆さんおいでください。

ただ、この3年のコロナ禍、そして岐阜県におきましては毎年公
民館の数も減りつつあります。今、岐阜県では250～60という数で、
その代わり公民館機能を備えた地区センター・町づくりセンター、そういったものが増えつつあります。

そういった次第で財政的にも困難な状況と思われまじ、岐阜県では東海北陸大会は岐阜地域、西濃地域、
飛騨地域、その順番に回ってきますが、地元での宿泊、あるいはこういった施設面でもなかなか大変なことも
ありますので、来年は初めてですが今までの57回の歴史から少し変えさせていただいて、2日間の日程を1日
に変更させていただくそのような準備をしております。何かとご不便あるいはご不自由をおかけするかと思
います。また、どうしてものお気持ちの方もありますが、岐阜県の新しい試みにご理解をいただきまして、
ご参加くださいますようお願いいたします。また、リモートによる参加も受け付けてまして広げようと考えておりま
す。

持続可能な社会づくり、そして安心・安全の未来づくりに対して公民館が拠点となれるように進めていこう
ということでもあります。是非よろしく願いいたします。



事務連絡

閉会後の分科会打合せ会と明日の分科会に関する諸連絡を、富山県公民館連合会本田正則事務局長が行いました。



閉会のことば

富山県公民館連合会

副会長 高井清高

第44回全国公民館研究集会、第57回東海北陸公民館大会富山大会、そして第16回富山県公民館大会の全体会に、このようにたくさんの方々に最後までご参加いただき心から感謝申し上げます。

今回の大会に私は大きな感動を覚えました。大会のために富山県立南砺平高等学校の郷土芸能部の皆さんの、日本一の芸能を見ることができ、大きな感動を覚えました。素晴らしい演技に心から御礼を申し上げたいと思います。

さて、いよいよ一日目が終わりました。私はこの東海北陸公民館大会にずっと参加してきました。一番楽しかったのは、この後、特に県外参加者の皆さんは、コミュニケーションをとる一番いい時間がそろそろ来ると思います。皆さんにおかれましては、絆を深めるために幹事の皆さんが一生懸命計画されていると思いますが、先ほど講演の中で立野館長が話しておられたように、富山はお魚がおいしいよ、お酒もおいしいよと。私はその富山湾で育ったおいしいお魚をいただいている関係で、このように元気で生活させてもらっています。

今日はこの後、親睦を深められるために、また明日の分科会のためにコミュニケーションを深めていただきたいと思います。特に幹事さん方、大変でしょうがよろしくお願いします。これには私たちは入りません。皆さんのグループで食べ放題、飲み放題、払い放題でどうか親睦を深めてください。

本当に長時間に渡りまして、こんなにたくさんの皆様方にご参集いただきまして、ありがとうございました。今日お集りの皆様方のご健勝、ご多幸をお祈りしまして閉会の挨拶といたします。



大会役員

| | | | |
|------|-----------------------------|----------------|------|
| 顧問 | 公益社団法人 全国公民館連合会 名誉会員 | 鹿熊久三 | |
| | 公益社団法人 全国公民館連合会 名誉会員 | 石川正夫 | |
| 大会長 | 公益社団法人 全国公民館連合会 会長 | | |
| | 東海北陸公民館連合会 会長（富山県公民館連合会会長） | 中西彰 | |
| 副大会長 | 東海北陸公民館連合会 副会長（岐阜県公民館連合会会長） | 三輪賢司 | |
| 運営委員 | 岐阜県環境生活部 環境生活政策課長 | 山田浩司 | |
| | 岐阜県公民館連合会 事務局長 | 河口洋二郎 | |
| | 石川県公民館連合会 会長 | 竹上勉 | |
| | 石川県教育委員会 生涯学習課 課長 | 岩木智子 | |
| | 石川県公民館連合会 事務局長 | 森田勝 | |
| | 愛知県公民館連合会 会長 | 高松透 | |
| | 愛知県教育委員会 生涯学習課 課長 | 上野賢司 | |
| | 愛知県公民館連合会 事務局長 | 今井智樹 | |
| | 福井県公民館連合会 会長 | 中村准 | |
| | 福井県教育委員会 生涯学習・文化財課 課長 | 中村忠嗣 | |
| | 福井県公民館連合会 事務局長 | 大久保容子 | |
| | 富山県教育委員会 生涯学習・文化財室 室長 | 吉田学 | |
| | 富山市教育委員会 生涯学習課 課長 | 高橋祐子 | |
| | 富山県公民館連合会 副会長 | 中村茂信 | |
| | 富山県公民館連合会 副会長 | 高井清高 | |
| | 富山県公民館連合会 副会長 | 大野聡一 | |
| | 富山県公民館連合会 副会長 | 塚八栄治 | |
| | 富山県公民館連合会 副会長 | 岩坪智恵子 | |
| | 事務局 | 富山県公民館連合会 事務局長 | 本田正則 |
| | | 富山県公民館連合会 事務局員 | 木本聡子 |

大会実行委員会

委員長 委員 副委員 (7人)

| | |
|---------|-----------------------------|
| 中 西 彰 | 富山県公民館連合会会長：富山市公民館連絡協議会顧問 |
| 高 村 茂 信 | 富山県公民館連合会副会長：富山市公民館連絡協議会会長 |
| 大 井 清 高 | 富山県公民館連合会副会長：高岡市公民館連絡協議会会長 |
| 塚 野 聡 一 | 富山県公民館連合会副会長：魚津市公民館連合会会長 |
| 岩 八 栄 治 | 富山県公民館連合会副会長：南砺市生涯学習連絡協議会会長 |
| 坪 智 恵子 | 富山県公民館連合会副会長：高岡市立成美公民館主事 |
| 麦 谷 理 香 | 富山県教育委員会生涯学習・文化財室家庭成人教育班班長 |
| 高 橋 祐 子 | 富山市教育委員会生涯学習課課長 |

委員 (39人)

| | |
|----------|---------------------------------|
| 山 口 吉 弘 | 富山県公民館連合会理事：富山市公民館連絡協議会副会長 |
| 武 埴 二 郎 | 富山県公民館連合会理事：富山市公民館連絡協議会副会長 |
| 伊 藤 和 雄 | 富山県公民館連合会理事：富山市公民館連絡協議会副会長 |
| 蒲 田 幸 雄 | 富山県公民館連合会理事：高岡市立能町公民館館長 |
| 岡 本 昭 彦 | 富山県公民館連合会理事：大島コミュニティーセンターセンター長 |
| 天 坂 正 | 富山県公民館連合会理事：氷見市中央公民館館長 |
| 永 田 晋 治 | 富山県公民館連合会理事：滑川市山加積地区公民館館長 |
| 谷 口 政 芳 | 富山県公民館連合会理事：黒部市立三日市公民館館長 |
| 平 澤 栄 次 | 富山県公民館連合会理事：砺波市立出町公民館館長 |
| 大 沼 宗 義 | 富山県公民館連合会理事：小矢部市立松沢公民館館長 |
| 酒 井 務 憲 | 富山県公民館連合会理事：立山町立利田公民館館長 |
| 吉 崎 嗣 憲 | 富山県公民館連合会理事：入善町中央公民館館長 |
| 浜 田 信 治 | 富山県公民館連合会理事：魚津市本江公民館主事 |
| 岩 田 伸 弘 | 富山県公民館連合会理事：砺波市立青島公民館主事 |
| 寺 林 賢 司 | 富山県公民館連合会理事：立山町立日中上野公民館主事 |
| 坂 本 真 紀 | 富山県教育委員会生涯学習・文化財室主任社会教育主事 |
| 片 桐 和 美 | 富山市教育委員会生涯学習課・生涯学習係長 |
| 北 河 雅 崇 | 高岡市教育委員会生涯学習・スポーツ課副課長 |
| 高 瀬 博 樹 | 朝日町教育委員会生涯学習係係長 |
| 道 下 玲 也 | 入善町教育委員会生涯学習・スポーツ係主任 |
| 寺 島 寿 治 | 黒部市教育委員会生涯学習文化課生涯学習係長 |
| 山 崎 弘 樹 | 滑川市教育委員会生涯学習課主任 |
| 谷 島 千 尋 | 上市町教育委員会生涯学習班主任 |
| 西 尾 祐 樹 | 立山町教育委員会教育課生涯学習係主任 |
| 田 屋 真 佐美 | 舟橋村教育委員会主任 |
| 石 黒 将 太郎 | 射水市教育委員会生涯学習・スポーツ課主事 |
| 中 西 佑 介 | 小矢部市教育委員会文化スポーツ課主任 |
| 宮 下 智 美 | 砺波市教育委員会生涯学習・スポーツ課主事 |
| 北 島 秀 人 | 南砺市教育委員会生涯学習スポーツ課主幹・課長補佐・生涯学習係長 |
| 二 川 正 博 | 魚津市上中島公民館館長 |
| 荻 野 直 樹 | 氷見市宇波公民館社会教育指導員 |
| 小 竹 清 正 | 富山市公民館連絡協議会事務局長 |
| 稲 川 建 一 | 富山市公民館連絡協議会常任理事：富山市立藤ノ木公民館館長 |
| 生 地 亮 良 | 富山市公民館連絡協議会常任理事：富山市立水橋中部公民館館長 |
| 木 下 裕 功 | 富山市公民館連絡協議会常任理事：富山市立福沢公民館館長 |
| 山 村 智 | 富山市公民館連絡協議会常任理事：富山市立速星公民館館長 |
| 安 川 久美子 | 富山市公民館連絡協議会常任理事：富山市立堀川公民館主事 |
| 若 林 祐 子 | 富山市公民館連絡協議会常任理事：富山市立上条公民館主事 |
| 古 市 猛 広 | 高岡市公民館協議会代表：高岡市立太田公民館館長 |

監 事

| | |
|---------|---------------------------|
| 井 口 淳 一 | 富山県公民館連合会監事：滑川市中加積地区公民館館長 |
| 松 下 正 市 | 富山県公民館連合会監事：氷見市十三公民館館長 |

事 務 局

| | |
|---------|---------------|
| 本 田 正 則 | 富山県公民館連合会事務局長 |
| 木 本 聡 子 | 富山県公民館連合会事務局員 |

第44回全国公民館研究集会
第57回東海北陸公民館大会富山大会
第16回富山県公民館大会
大会記録

令和4年12月1日 発行

発行者／第57回東海北陸公民館大会
富山大会実行委員会

富山県公民館連合会事務局内
〒930-0096 富山市舟橋北町7-1
富山県教育文化会館内
TEL/FAX 076-444-5777
E-mail tomico7@iaa.itkeeper.ne.jp



第44回 全国公民館研究集会

第57回 東海北陸公民館大会
富山大会

第16回 富山県公民館大会